令和７年度　授業計画書

（実務経験のある教員）

【科目名】	解剖学	【担当講師】	藤田　慶恵

【年次・開講期】　1年次・前期	【時間】　30時間	【単位】　2単位

【授業概要】

歯科衛生士のための学習過程において、そのもっとも基礎となる人体構造の構造と機能について学習することを目的とする。ともすると用語の詰め込みになりやすい科目であるが、できるだけ相互の関連性やイラストを活用して実際的な知識の整理をしながら学習すること目指す。

生理学、生化学、病理学などすべての科目の基礎となるが、やや知識が散漫に成りやすいので、各自知識を整理しながら学習にのぞんでほしい。

【実務経験有】

群馬大学医学部附属病院歯科口腔顎顔面外科　歯科医師

【教科書】

歯科衛生士教本　人体の構造と機能1　解剖学・組織発生学・生理学

【参考図書】

南山堂　高野廣子　解剖生理学, 南山堂　伊藤隆　著　高野廣子　改訂　解剖学講義

【授業方法】

対面授業（講義）

【評価方法】

単位取得試験の結果が60%を超えたものを合格とする。

授業態度、授業中で適宜行う小テストの内容、結果によっては減点を課す場合がある。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	◎人体の構成 ◎人体の区分、体の方向用語 ◎骨格系 1、概説(骨の機能、構造、形態) 2、骨の連結	・医学の一分野である歯科領域のパラメディカル分野である歯科衛生士にとって、歯科医師との意思疎通を図るための共通用語であるという認識を持つ ・人の運動は支持体である骨が必須であることを知る ・骨の連結様式が説明できるようにする
2	◎骨格系① 3、骨の発生 4、実際の骨の構造 上肢骨	・骨の発生様式、再構成様式について学ぶ ・脊椎を構成する椎骨、肋骨、胸骨について学ぶ ・上肢の構成が上肢帯と自由上肢からなること、上肢帯とは鎖骨、肩甲骨で構成されていることを知る ・自由上肢が様々の骨で構成されていることを知る
3	◎骨格系② 下肢骨 下肢帯の骨 自由下肢骨 ◎筋と運動① 1、筋の形状と分類	・下肢帯は骨盤であることを知る ・自由下肢が大腿骨、脛骨、腓骨といくつかの足の骨で構成されていることが説明できるようにする ・筋は骨格筋、平滑筋、心筋の3種類あることを知る ・骨格筋についてその収縮の機構について知る
4	◎筋と運動② 2、体の各部位の筋系 頭部の筋 頸部の筋 背部の筋	・頭部、頸部、背部の筋について、その名称、機能神経支配について説明できるようにする ・とくに歯科領域に関係の深い頭部、頸部の筋については、口腔領域との関係について説明できるようにする
5	◎筋と運動③ 胸部の筋 腹部の筋 上肢の筋 下肢の筋	・上肢、下肢の典型的な運動様式（屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋、回内、回外）について把握し必要な筋の種類と神経支配について知る ・運動に重要な関節の名称、機能が説明できるようにする

回	授業項目	授業内容
6	◎消化吸収① 消化と吸収の意義 消化器の構造 口腔、咽頭 食道、胃	・内臓がその機能から消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系, 内分泌系で構成されていることを知る ・消化器は口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸で構成されてることが説明できるようする ・三大口腔腺について説明できるようする。
7	◎消化吸収② 小腸、大腸 肝臓、胆嚢、膵臓 腹膜 大腸の機能	・消化器の外分泌腺である肝臓と膵臓の形態と機能について説明できるようにする ・消化器のそれぞれの臓器における、腹膜の役割、および大網、腸間膜について説明できるようにする ・膵臓に内分泌部があることを知る
8	◎循環① 血管系の概要 血管の構造 吻合、終動脈 体循環、肺循環	・動脈、静脈の特徴について説明できるようにする ・動静脈吻合、終動脈の特徴や存在部位について説明できるようにする ・体循環・肺循循環の重要性について学ぶ
9	◎循環② 心臓の位置と形態 心臓の内部構造 心臓壁の構造	・心臓の位置と形態、内部構造について知る ・刺激伝導系について説明できるようにする ・心臓壁の構造や心膜腔について知る
10	◎循環③ 動脈系 静脈系 静脈確保と静脈注射 胎児循環	・肺循環、体循環を構成する身体各所の血管の名称が説明できるようにする ・胎児循環と出産後の変化について知る ・肝硬変になった時にどのような症状が出るのかを知る（門脈系の役割が重要）
11	◎循環④ 1、リンパ系の概要とその機能 2、リンパ管とリンパ節 3、リンパ系と主なリンパ節 4、リンパ循環、胸腺、脾臓	・リンパ循環の役割と生体防御におけるリンパ系器官の重要性について知る ・リンパ節、リンパ小節の構造と役割、扁桃、胸腺、脾臓の役割について知る
12	脳脊髄膜 脳の血管 脊髄神経系 呼吸 1、外呼吸と内呼吸 2、呼吸器の構成 上気道 下気道 肺と気管、気管支 肺嚢胞と肺胞、肺の血管 3、気管と肺の神経支配	・脳脊髄膜が硬膜、クモ膜、軟膜で構成され、特にくも膜下腔内には脳脊髄液の循環があることを知る ・脊髄神経の走行と上肢・下肢の筋との関係を知る ・内呼吸と外呼吸の概念について理解する ・呼吸器系が鼻腔、咽頭、喉頭、気管、肺で構成されていることを知る ・呼吸は交感神経と副交感神経によって支配されてされている重要性について知る ・肺胞は単なる袋であること、横隔膜や外肋間筋の役割の重要性について知る
13	内分泌 1、内分泌器官とホルモン 2、内分泌器官の種類 3、内分泌器官の構造と機能 特殊感覚器 視覚器、平衡聴覚器 味覚器、嗅覚器	・内分泌系が下垂体、甲状腺、上皮小体、性腺、副腎で構成されていることを知る ・それぞれの臓器が分泌するホルモンと生理的機能について説明できるようにする ・特殊感覚器の構造と機能に関して理解する
14	生殖器 男性生殖器　女性生殖器 泌尿器 腎臓、尿管、膀胱、尿道	・男性生殖器と女性生殖器の構成、形態と機能、ホルモンとの関係について説明できるようにする ・泌尿器の構成と構造、働きについて知る
15	総括	・今までの講義内容で特に重要な点を再度確認する

【科目名】 組織発生学		【担当講師】 濱村和樹
【年次・開講期】 1年次・後期	【時間】 16時間	【単位】 1単位

【授業概要】

歯科医学を習得するための基礎として人体の構造，機能についてミクロレベルの知識を身に付ける．近年，バイオテクノロジーの目覚ましい進歩により基礎科目の国家試験出題数の増加がみられており、その重要性が再認識されている．組織・発生学で習得する形態学的および機能的知識によって人体の正常構造を統合的に理解し，今後の基礎科目あるいは臨床科目の基礎となる学力を確実に身に付けることが重要である．

【実務経験有】

群馬大学医学部付属病院歯科口腔・顎顔面外科　医員

【到達目標】

講義を通して歯科医学の基本となる人体の細胞と構造，機能について理解する．
人体の正常な細胞および組織の構造や発生過程を，組織学的用語で正確に述べることが出来る．

【教科書】

人体の構造と機能1
解剖学・組織発生学・生理学　一般社団法人　全国歯科衛生士教育協議会　監修　医歯薬出版

【参考図書】

なし

【授業方法】

講義資料（プリント）を配布し、教科書の内容を盛り込んだ、写真や図付きのスライドを
利用した講義を行います。

【評価方法】

・単位取得試験を行う（形式は選択解答問題と記述解答問題のいずれも含む）
・試験に得点に加えて授業態度を考慮して総合評価を行う。

【授業計画】

1	イントロダクション	・組織発生学の概要
2	細胞の構造と機能	・Ⅰ編　第1章　細胞と組織　①細胞
3	組織	・Ⅰ編　第1章　細胞と組織　②上皮組織と支持組織
4	発生学①	・Ⅰ編　第2章　発生　①染色体と減数分裂　②精子と卵子の発生　③受精と着床　④胚葉の形成
5	発生学②	・Ⅰ編　第2章　発生　⑤胎児の成長と発育
6	骨・筋の構造	・Ⅱ編　第1章　骨格系　①概説　②骨の発生　③頭蓋骨　④体幹骨　⑤上肢骨　⑥下肢骨　第2章　筋と運動　①概説
7	神経の構造	・Ⅱ編　第6章　神経系　③中枢神経系　⑥末梢神経系
8	まとめ	・まとめ

【科目名】	生理学	【担当講師】	塩崎　秀一

【年次・開講期】	1年次・前期	【時間】	16 時間	【単位】	1単位

【授業概要】

生理学は解剖学と並んで、医学の基礎をなすものである。

この授業では、生命活動を支える人体各部の機能を学び、疾患（正常機能が損なわれた状態です）の理解の基礎を作る。

国家試験によく出る項目についても講義内で触れる。

【実務経験有】

生理学、病理学分野の研究者（医学博士）として長年従事

【到達目標】

人体各部の機能を理解し、医療者として疾患をみる力の基礎をつくる。

【教科書】

新歯科衛生士教本　生理学、医歯薬出版

【参考図書】

【授業方法】

講義形式で行う。毎回の講義をよく聞いて説明を理解することが第一であると思います。

【評価方法】

記述を中心として試験をおこなう。出席、授業への取り組みも加味する。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	細胞と組織 体液の恒常性	ガイダンス、生命とは？ 生命の単位である細胞や組織、また生命を支える機能を確認する。 酸塩基平衡、体液電解質、体液水分量
2	血液	血液の成分、機能 血液の凝固と溶解 血液型
3	循環系	心臓の機能とこれを支える構造や仕組み 心臓の自動性、興奮伝導系 心臓機能の調節
4	循環系	血管の構造と機能 血圧とその調節
5	呼吸系	呼吸器の機能 呼吸機能の調節
6	呼吸系	呼吸運動、肺活量
7	消化系	消化管（口腔、食道、胃、小腸、大腸）の機能とこれを支える構造や仕組み
8	消化系	肝臓、膵臓、胆のうの機能とこれを支える構造や仕組み

回	授業項目	授業内容
9	泌尿器系	腎臓の機能とこれを支える構造や仕組み
10	内分泌系	生体の調節系、ホルモンとは 主要なホルモンとその作用
11	内分泌系	主なホルモンとその作用 分泌の調整
12	神経系	神経単位(ニューロン)、神経の興奮の基礎、中枢神経系と末梢神経系
13	神経系	中枢神経系、脳の働き、伝達路
14	感覚系	特殊感覚、特に味覚の働き
15	感覚系	体性感覚

【科目名】	口腔解剖学	【担当講師】	矢内　太郎

【年次・開講期】　1年次・前期	【時間】　30時間	【単位】　2単位

【授業概要】

口腔解剖学は、主に人体の頭頸部の構造を理解することを目的とする。

【実務経験有】

矢内歯科医院院長：歯科医師

【到達目標】

3次元的に骨、筋肉、脈管が絡み合った複雑な構造を理解し、かつ
それぞれの組織の名称や役割なども同時に理解する。

【教科書】

最新歯科衛生教本「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」 医歯薬出版

【参考図書】

分担解剖学 （金原出版）

【授業方法】

講義形式（教科書，パワーポイント）

【評価方法】

全授業終了後、マークシート試験を行う。
60点以上の者を合格とする。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	◎　口腔 1. 口腔とは 2. 口唇と頬	・口腔の定義について学ぶ。 ・口唇、頬の構造と働きについて知る。
2	◎　口腔前庭 1. 口唇と頬の粘膜 2. 移行部 3. 歯肉 4. 口腔前庭にみられるヒダ 5. 口腔前庭にみられる隆起 6. 歯肉の分布する血管 ◎　固有口腔 1. 口蓋 2. 舌下部	・口腔前庭の部位の確認。 ・口唇や頬、歯肉の解剖学的構造を理解し、 その機能についても学ぶ。 ・歯肉を構成する組織についても学ぶ。 ・口蓋と舌下部の場所と構造について知る。
3	◎ 口峡 ◎　舌 1. 舌の区分 2. 舌をおおう粘膜 3. 舌筋 4. 舌の動脈、静脈 5. 舌の神経	・口峡に存在する筋肉の名称と役割について学ぶ。 ・舌の解剖 （区分、粘膜の構造、筋肉の走行、動脈・静脈の流れ、神経の走行など） について学ぶ。
4	◎　唾液腺 1. 小唾液腺 2. 大唾液腺	・唾液腺の種類や分泌される唾液の性状について。 ・唾液腺の導管の走行について理解する。
5	◎　咽頭 1. 咽頭の区分 2. 咽頭の筋	・咽頭の定義について学ぶ。 ・咽頭部に存在する筋の名称、走行、働きについて理解する。

回	授業項目	授業内容
6	◎　頭蓋骨 1. 頭蓋の前面 2. 頭蓋の上面 3. 頭蓋の側面 4. 頭蓋の下面 5. 頭蓋の内面 ◎　上顎骨 1. 上顎体 2. 上顎骨の突起 3. 歯槽管	・頭蓋骨は15種、23個の骨から構成されている。 それぞれの構造や神経、血管などが通る経路なども理解する。 ・上顎体を中心に上顎骨を構成する突起について学ぶ。 ・歯槽管を通る神経、動脈の分布を学ぶ。
7	◎　口蓋骨 1. 鉛直板 2. 水平板 3. 翼口蓋窩 ◎　下顎骨 1. 下顎体 2. 下顎枝	・口蓋骨の構造と口蓋骨内を通る神経、脈管について学ぶ。 ・下顎骨の構造の理解。下顎骨を通る神経、脈管や下顎骨に付着する 筋肉についても学ぶ。 ・下顎骨は口腔解剖のなかでも特に重要であるためより深く理解する 必要がある。
8	◎　舌骨 ◎　顎関節 1. 骨部 2. 被覆部 3. 関節円板 4. 関節包 5. 靭帯 6. 顎関節の機能	・舌骨の構造や付着する筋肉について学ぶ。 ・顎関節は複雑な構造を呈しており、下顎骨に付着する筋肉とともに 下顎の運動を制御している。その複雑な構造と運動を理解する。
9	◎　表情筋 1. 口裂周囲の筋 ◎　舌骨上筋 1. 舌骨上筋群 2. 顎下三角とオトガイ三角	・表情筋の種類と走行について学ぶ。 ・舌骨上筋群の種類と付着部位、走行について学ぶ。 ・顎下三角とオトガイ下三角の部位について。そこに存在する リンパ節について学ぶ。
10	◎　咀嚼筋	・咀嚼筋（咬筋、側頭筋、内側翼突筋、外側翼突筋）の走行と運動 について。
11	◎　口腔付近に分布する動脈 1. 総頸動脈 2. 外頸動脈 ◎　口腔付近に分布する静脈 1. 内頸静脈 2. 頭頸部の動脈と静脈の差異	・頭頸部から口腔にかけて分布する動脈の走行について理解する。 ・頭頸部から口腔にかけて分布する静脈の走行について理解する。
12	◎　頭頸部のリンパ系 1. 下顎底にあるリンパ節 2. 側頸部にあるリンパ節	・頭頸部のリンパ節の位置について学ぶ。
13	◎　神経 脳神経 1. 三叉神経 2. 顔面神経 3. 舌咽神経 4. 迷走神経 5. 舌下神経 脊髄神経 1. 脊髄神経と脊髄神経叢の区分 2. 頭頸部に分布する脊髄神経 自律神経	・神経の種類について。 ・特に脳神経のうち、顎顔面周囲を支配する神経については深く 理解する必要がある。 ・脊髄神経や自律神経の区分について学ぶ。
14・15	◎　試験対策	・これまで学んだ授業の復習と試験直前のまとめを行う。

【科目名】	歯牙解剖学	【担当講師】	高松　透浩

【年次・開講期】 1年次・前期	【時間】 16時間	【単位】 1単位

【授業概要】

歯牙解剖学は人間の歯根を含む歯牙の特徴や形態を学習し、その知識を臨床で活かして診療を行えるための基礎知識をつけることを目的とする。

特に歯根の形態を知ることは、歯科衛生士として効果的なスケーリング処置を行う上で必要なため、歯種に特徴的な歯根形態を知り、臨床に役立てられるようにする。

【実務経験有】

高松歯科医院院長（歯科医師）

【到達目標】

歯の表示法や記号について説明でき、歯の形態を歯種別に説明でき、歯種を鑑別できるようになる。

また、歯の形態異常について説明できる。

【教科書】

「歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」

【参考図書】

「日本人　永久歯解剖学」上條雍彦 著

【授業方法】

講義形式および実習形式

【評価方法】

授業態度等で増減点する場合がある。

授業のあと筆記方式のテストを行う場合がある。60点以上の者を合格とする。

実習での歯牙彫刻の提出を行い、それによって増減点する場合がある。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	歯の機能・形態・種類・表示法	歯の機能・交換・植立について理解する。歯の各部の名称について理解する。 永久歯と乳歯の種類と数および表示方法について理解する。
2	歯の位置による名称、左右識別	歯の位置による名称について理解する。 ミュールラーターの三徴候について理解する。
3	上顎中切歯・側切歯・犬歯 下顎中切歯・側切歯・犬歯	上下顎中切歯・側切歯・犬歯の特徴について理解する。
4	上下顎小臼歯	上下顎第一・第二小臼歯の特徴について理解する。
5	上下顎大臼歯	上下顎第一・第二大臼歯の特徴について理解する。
6	乳歯の特徴と永久歯との比較	乳歯の特徴について理解し、永久歯との違いを理解する。 乳中切歯・乳側切歯・乳犬歯・乳臼歯の形態と特徴について理解する。
7	特色のある歯の形態	典型的な歯の形態とは異なる歯の状態について理解する。
8	歯形彫刻実習	代表的な歯牙の形態を立体的に理解する。 ワックス棒を使いノギスとエヴァンスの使用法になれる。

【科目名】	口腔組織発生学	【担当講師】	藤田　慶恵

【年次・開講期】	1年次・前期	【時間】	16 時間	【単位】	1単位

【授業概要】

歯科医学を習得するための基礎として人体の細胞と構造，機能についてミクロレベルの知識を身に付ける．近年，バイオテクノロジーの目覚ましい進歩により基礎科目の国家試験出題数の増加がみられており，　その重要性が再認識されている．
口腔組織・発生学で習得する形態学的および機能的知識によって口腔の正常構造を統合的に理解し，　向後の基礎科目あるいは臨床科目学習の基礎となる学力を確実に身につけることが肝要である

【実務経験有】

群馬大学医学部附属病院歯科口腔顎顔面外科　歯科医師

【到達目標】

講義を通して歯科医学の基本となる人体の細胞と構造，機能について理解する．また，業者模試・国家試験に準じた試験問題を通じて国家試験合格基準レベル以上の解答力を身に付ける．
(1) 口腔の正常な細胞および組織の構造を，組織学的用語で正確に述べることが出来る．
(2) 口腔に関連する細胞および組織構造を述べることが出来る．
(3) 口腔の正常発生過程を理解し，臨床的に重要な先天異常の成り立ちを説明することが出来る．

【教科書】

（1）歯科衛生士教本　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学　医歯薬出版．

【参考図書】

口腔の発生と組織改訂4版　南山堂

【授業方法】

対面授業　講義形式

【評価方法】

定期試験（評価比率100%）：選択式および記述試験にて評価を行う．
※なお，定期試験不合格者に再試験を実施する．

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	顔面と口腔の発生	鰓弓や突起，口蓋と鼻腔などのポイントを理解し，顔面と口腔の発生について理解できるようにする．
2	歯と歯周組織の発生	歯胚の形成や発生，歯牙の交換について理解できるようにする．
3	エナメル質	エナメル質の正常組織構造を理解する．
4	象牙質・歯髄	象牙質・歯髄の正常組織構造を理解する．
5	セメント質・歯根膜	セメント質・歯根膜の正常組織構造を理解する．
6	歯槽骨・歯肉	歯槽骨・歯肉の正常組織構造を理解する．
7・8	総復習	講義内容の総復習を行い，定期試験・国家試験における口腔組織発生学分野の出題ポイントと解法を学ぶ．

【科目名】	**口腔生理学**	【担当講師】	塩崎　秀一

【年次・開講期】	1年次・前期	【時間】	16時間	【単位】	1単位

【授業概要】

生理学は人体各部の働きを学ぶ学問であり、解剖学と並んで、医学の基礎をなすものである。
口腔生理学の授業では、口腔の機能と野の背景にある仕組みを学び、
疾患（正常機能が損なわれた状態です）の理解の基礎を作る。
国家試験によく出る項目についても講義内で触れる。

【実務経験有】

生理学、病理学分野の研究者（医学博士）として長年従事

【到達目標】

口腔に関する基本構造と機能を理解する。

【教科書】

新歯科衛生士教本　口腔生理学、医歯薬出版

【参考図書】

【授業方法】

講義

【評価方法】

単位認定試験、出席率と授業への取り組み、提出レポートを総合評価する。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	口腔生理の基礎	ガイダンス、口腔の様々な機能 口腔やその周辺器官のさまざまな機能を確認する。 口腔機能を支える神経や筋などの基本構造を確認する。
2	咬合、下顎の働き、咀嚼	下顎位、下顎の運動、咀嚼筋 顎反射 咀嚼とは、その役割を確認
3	咀嚼と嚥下	嚥下の3相 嚥下障害
4	舌	舌のさまざまな機能を確認 舌の機能を支える基本的な構造を確認
5	舌	おもな舌筋、舌の支配神経などを確認
6	唾液	唾液の性状と成分、唾液のもつ機能、主な唾液腺 唾液分泌の調節
7	味覚、口腔内の感覚	味覚の役割、味覚の器官の確認 味覚障害とその原因 口腔内の感覚とその役割
8	感覚と神経	口腔のおもな感覚とその支配神経を確認
9	発声	発声機構の概要 声の生成 言語音の形成
10	発声	構音障害、歯や口腔病態と発音 全体のまとめ

【科目名】	病理学Ⅰ	【担当講師】	天笠　稔

【年次・開講期】　1年次・前期(4月～6月)	【時間】　16時間	【単位】　1単位

【授業概要】

病理学は、病気の原因、発症の機序、進展、および転帰を明らかにし、病気の予防や治療の基礎となる知見を統合する学問である。

総論で述べられている病理学的な考え方は医学の基礎であり、医療に携わる者が共通に身につけなければならない基本です。

職業として患者に直接接したり保健活動を行う歯科衛生士にとってとても重要な学科である。

【実務経験有】

平成14年より病理学Ⅰを担当

【到達目標】

1.疾患の多様性と共通性について説明できる。

2.炎症とは何かを説明できる。

3.良性腫瘍と悪性腫瘍について説明できる。

【教科書】

最新歯科衛生士教本「病理学・口腔病理学」 医歯薬出版

【参考図書】

国試の麗人Ⅱ　　DES

【授業方法】

講義形式は、パワーポイントを使い教科書に沿って授業を進めます。

国家試験問題も利用し講義内容の理解を深めます。授業中に随時質問を投げかけます。

【評価方法】

全授業の終了後、記述式試験を行う。合計得点（100点満点）の60点以上の者を合格とする。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	病理学序論と病因論	1. 疾病の多様性と共通性について説明できる。 2. 疾病の経過と転帰について説明できる。 3. 疾病の原因である病因と疾病の成り立ちについて説明できる。 4. 内因について説明し、具体例を列挙できる。 5. 外囲について説明し、具体例を列挙できる。
2	遺伝性疾患と奇形	1. 遺伝子の働きについて説明できる。 2. 遺伝性疾患を概説できる。 3. 先天異常について概説できる。 4. 奇形の成因について説明できる。
3	循環障害	1. 体液の循環について概説できる。 2. 虚血を説明できる。 3. うっ血と充血を説明できる。 4. 浮腫を説明できる。 5. ショックについて概説できる。 6. 閉塞性循環障害について概説できる。 7. 血栓症を説明できる。 8. 梗塞を説明できる。 9. 粥状動脈硬化症を説明できる。 10. 側副循環を説明できる。

回	授業項目	授業内容
4	代謝障害と退行性病変	1. 細胞障害による変化を列挙できる。 2. 変性の種類を列挙できる。 3. 代謝障害の種類を列挙できる。 4. 壊死と壊疽、壊死とアポトーシスの違いを説明できる。
5	増殖と修復	1. 刺激や傷害に対する能動的な反応の種類と意義を説明できる。 2. 創傷治癒や再生の基本的な考え方を概説できる。 3. さまざまな異物に対する生体の処理法について説明できる。 4. 進行性病変において重要な役割を果たす肉芽組織の構成と機能について説明できる。
6	炎症	1. 炎症とは何かを説明できる。 2. 炎症の臨床症状を説明できる。 3. 炎症の原因と機序を説明できる。 4. 炎症の経時的変化を説明できる。 5. 炎症の分類と各炎症の特徴を説明できる。
7	免疫応答異常	1. 免疫応答を説明できる。 2. 液性免疫と細胞性免疫の特徴を説明できる。 3. アレルギー・自己免疫疾患・免疫不全症・移植免疫を概説できる。
8	腫瘍	1. 腫瘍の定義を説明できる。 2. 腫瘍の原因と発生機序を説明できる。 3. がん遺伝子とがん抑制遺伝子について説明できる。 4. 腫瘍の組織学的特徴を説明できる。 5. 上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の代表的なものを列挙できる。 6. 良性腫瘍と悪性腫瘍について説明できる。 7. 前がん病変について説明できる。

【科目名】	病理学Ⅱ	【担当講師】	正田　峻也

【年次・開講期】　1年次・前期	【時間】　16時間	【単位】　1単位

【授業概要】

病理学は病気がどのように発生するかを明らかにする学問です。その研究により病気の予防や治療につながることを目標としています。様々な病気の基礎として病理学Ⅰで学び、口腔領域のの各論について病理学Ⅱで学習を行います。歯のう蝕や歯周組織の病変について学習から口腔粘膜や顎骨に生じる病変まで多岐にわたる疾患を取り扱います。各分野の学習の礎となるよう、口腔歯科疾患の学問の見地を広げる科目となっています。

【実務経験有】

群馬大学医学部付属病院歯科口腔・顎顔面外科　医員

【到達目標】

・口腔歯科疾患の主体となる、「う蝕」と「歯周病」の成り立ちについて理解する。

・口腔粘膜疾患や顎骨病変などの臨床業務で比較的遭遇頻度が高い疾病について理解する。

・上記を含む、口腔内に発症する多様な疾病について理解する。

【教科書】

最新歯科衛生士教本　疾病の成り立ち及び回復過程の促進1　病理学・口腔病理学

医歯薬出版株式会社

【参考図書】

なし

【授業方法】

講義資料（プリント）を配布し、教科書の内容を盛り込んだ、写真やシェーマ付きのスライドを利用した講義を行います。

【評価方法】

・単位取得試験を行う（形式は選択解答問題と記述解答問題のいずれも含む）

・試験に得点に加えて授業態度を考慮して総合評価を行う。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	・口腔病理各論①	第1章　歯の発育異常 第2章　歯の損傷と付着物
2	・口腔病理各論②	第3章　う蝕
3	・口腔病理各論③	第4章　象牙質・歯髄複合体の病態 第5章　歯周組織の病態①
4	・口腔病理各論④	第5章　歯周組織の病態② 第6章　口腔粘膜の病変
5	・口腔病理各論⑤	第7章　口腔領域の嚢胞と腫瘍 第8章　口腔癌
6	・口腔病理各論⑥	第9章　顎骨の病変 第10章　唾液腺の病変
7	・口腔病理各論⑦	第11章　口腔領域の奇形 第12章　口腔組織の加齢変化
8	・口腔病理学のまとめ	第1～12章のまとめ

【科目名】	微生物学Ⅰ	【担当講師】	林 由里子

【年次・開講期】	1年次・ 前期	【時間】	16 時間	【単位】	1単位

【授業概要】

歯科領域の疾患では微生物による感染症が最も多いことから、疾患の原因となる種々の病原微生物の特徴(性状)とその病原性について学習する。とくに、細菌やウイルスなどの病原微生物による感染症とその感染経路や検査法について学習する。また、この病原微生物に対して、感染防御のために備わっている生体の免疫機構について学習する。

【実務経験有】

群馬パース大学 教員、病院検査部において微生物検査、免疫検査の実務および教育経験有り

【到達目標】

病原微生物の種類とその性状、病原性を理解する。病原微生物が原因となって発症する感染症とその感染経路を理解する。これら病原微生物の攻撃を防御するための生体に備わっている免疫機構である自然免疫と獲得免疫について学び、これらの免疫機構を担う細胞の種類と役割について理解する。
さらに、獲得免疫については細胞性免疫と液性免疫について学び、病原微生物に対する生体(宿主)の免疫機構(宿主防御機構)を理解する。

【教科書】

歯科衛生学シリーズ 微生物学 第2版 (医歯薬出版)

【参考図書】

【授業方法】

教科書および配布資料を用いた講義形式

【評価方法】

定期試験による評価(60点以上を合格とする)

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	疾病と微生物	微生物について、生物界における位置づけと分類を学習する。また、病原微生物から身を守るために発展してきた微生物学の歴史について学習する。
2	病原微生物の検査法	病原微生物の検査法である顕微鏡観察を行うための染色法と、細菌を集落として目視できるようにするための培養法について学習する。また、染色性の違いによる細菌の分類について学ぶ。
3	細菌各論Ⅰ(グラム陽性菌)	グラム陽性球菌およびグラム陽性桿菌の代表的な菌種について、その特徴を学ぶ。
4	細菌各論Ⅱ(グラム陰性菌)	グラム陰性球菌およびグラム陰性桿菌の代表的な菌種について、その特徴を学ぶ。
5	ウイルス	ウイルスの特徴や構造、感染増殖様式について学び、医療従事者として知っておくべきウイルス感染症とその感染経路について学ぶ。
6	真菌、原虫、プリオン	真菌、原虫、プリオンの特徴や構造、感染増殖様式、それらが引き起こす感染症とその感染経路について学ぶ。
7	宿主防御機構と免疫Ⅰ	外界から侵入する病原体などに対する生体防御機構のうち先天的に備わっている自然免疫と後天的に得られる獲得免疫について学ぶ。
8	宿主防御機構と免疫Ⅱ	抗原抗体反応の種類とこれらを利用した検査法、獲得免疫を利用した感染症の予防法であるワクチン、免疫系の過剰反応の結果おこるアレルギーについて学習する。

【科目名】	微生物学Ⅱ	【担当講師】	杉山　達也

【年次・開講期】　1年次・後期	【時間】　16時間	【単位】　1単位

【授業概要】

本講義では、口腔内疾患の原因菌とその性状、またこれら病原微生物に対する抗菌薬、消毒・滅菌について解説する

【実務経験有】

医療法人杉山歯科医院院長（歯科医師）

【到達目標】

歯科疾患とその原因菌の関係について理解する

【教科書】

新歯科衛生士教本　微生物学（全国歯科衛生士教育協議会　編集：医歯薬出版）

【参考図書】

配布資料

【授業方法】

下記の授業計画に従って、教科書の内容を網羅した配布資料とスライドで講義を行なっていく

【評価方法】

試験による。60点以上を合格とする。60点未満の者は再試験を行い判定する。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	歯科疾患と微生物学	歯科衛生士としてなぜ微生物学を学ばなければならないのかを理解してもらうため、歯科疾患と微生物の関わりについて講義する。
2	口腔内微生物（Ⅰ）	口腔内に微生物が定着する機構並びに細菌叢について講義する。
3	口腔内微生物（Ⅱ）	口腔内に常在する微生物の種類並びにバイオフィルム形成について講義する。
4	齲蝕症	齲蝕症と微生物の関係並びにその発症機構を概説する。
5	歯周病	歯周病と微生物の関係並びにその発症機構を概説する。
6	口腔内感染症	口腔内に症状が認められる各種感染症について講義する。
7	化学療法	口腔内微生物に対する化学療法について概説する。
8	消毒・滅菌	口腔内微生物に対して臨床上行われている消毒・滅菌について講義する。

【科目名】	薬理学Ⅰ	【担当講師】	島村　好則

【年次・開講期】　1年次・前期	【時間】　16時間	【単位】　1単位

【授業概要】

薬理学は、薬物を生体に与えた場合に生体が表す反応を考究したり、疾病の治療、予防、診断における薬物療法基礎となる研究を行い、その知識を与えるのが薬理学です。人類の歴史は、薬理学の歴史と言ってもいいほど私達は、様々な脅威に遭遇してきました。その都度人類は、新薬を開発して克服してきました。しかしその道程は、多くの時間を費やし多くの犠牲を払うこともあります。一方で薬には、意に反して人体に害を及ぼす薬害という健康被害がもたらされる事があります。この歴史と概要も学び、この対処機構についても学びます。

【実務経験有】

実務経験数30年

【到達目標】

学生が薬理学の基礎を習得し、薬物の基本性能、副作用、併用作用取り扱いの注意点を理解し、

臨床においてそれを安全にしようでき職務を遂行出来るようにする。

【教科書】

歯科衛生士教本　疾病の成り立ち及び回復過程の促進3　薬理学

【参考図書】

【授業方法】

教科書の解説をし、重要な箇所にアンダーラインを引いてもらい過去の国家試験に出題された箇所を

マークします。必要な資料を配布します。

【評価方法】

6月末に講義8回分の範囲の試験を行います。その点数と、薬害についてのレポートを提出して頂きます。

試験とレポートの合計の60点以上を合格とします。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	薬物の作用	薬物療法の種類、薬理作用の様式、薬理作用の基本形式、薬理作用分類、用量反応関係と薬用量の用語、薬理作用機序
2	薬物動態	薬物の生体膜通過様式と通過に影響する因子、薬物の吸収分布代謝排泄、薬物動態のパラメーター
3	薬物の作用適用方法の種類と特 感染症の歴史と薬物	薬物の適用方法の種類、適用方法の違いによる血中濃度の推移、生物学的利用能、感染症の種類と時代的変化、抗生物質とワクチンの開発
4	薬物の作用に影響を与える要因	薬効に影響する因子・生体の感受性、薬物の連用併用、薬物相互作用
5	薬物の副作用、有害作用 薬害	薬物の有害作用の分類と原因、有害作用の予知と回避
6	医薬品を適用する際の注意	ライフステージと薬物、服薬指導
7	薬物の取り扱い	医薬品の財形、処方箋、調剤と配合変化、薬物の保存方法
8	薬物と法律・薬物と医薬品	医薬品医療機器等法、日本薬局方、毒薬劇薬の表示と保存方法 麻薬及び覚醒剤取締法、、向精神薬取締法、大麻取締法、PMDA

【科目名】	薬理学Ⅱ	【担当講師】	鈴木　君弘

【年次・開講期】 1年次・後期	【時間】 16時間	【単位】 1単位

【授業概要】

薬理学とは、薬物を生体に与えて場合に生体が現す反応を研究する学問である。
各論では、中枢神経系、抹消神経系、呼吸器系、循環器系及び消化器系に作用する薬物についての作用機序、特徴、副作用について理解する。さらに、歯科疾患に対して臨床上使用される使用薬についても理解し、患者様に説明できるようにする。

【実務経験有】
歯科医師
医療法人　弘誠会　すずき歯科医院　理事長

【到達目標】
薬理学の意義、薬理作用と薬物の作用機序を理解する。薬物の副作用、有害事象について理解する。
疾患に応じた薬物療法にいつて代表的な薬物について理解する。
結果、国家試験に合格できる薬理学の知識の習得を目標とする。

【教科書】
疾病の成り立ち及び回復過程の促進3　薬理学　第2版　Ⅱ編　各論（P72～220）

【参考図書】
教科書の内容に沿った講師作成プリント

【授業方法】
プリント内の空欄を埋めながら説明・解説

【評価方法】
授業態度・試験・レポートの総合で判断。
出席状況2/3以上で試験受験可。
全授業終了後、国家試験形式の問題28問、空欄記入問題12問の計50問の試験を実施。
授業中に紹介した書籍についてのレポートを希望者は提出（最大6点まで加算）。
総合計得点60点以上で科目単位所得。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	12章　炎症と薬 15章　抗感染症薬	アラキドン酸カスケードを理解し、炎症のケミカルメディエーターを介してステロイド 及び非ステロイド性抗炎症薬の代表的な作用機序と薬物・薬理作用を説明。
2	15章　抗感染症薬 16章　消毒に使用する薬物	一般臨床において多く処方される抗感染症薬の種類を覚え、その作用、作用機序及び副作用について説明。
3	4章　循環器に作用する薬物 5章　腎臓に作用する薬物	循環系特に高血圧症に使用する薬物について説明
4	6章　呼吸器系に作用する薬物 8章　血液に作用する薬物	呼吸器系特に喘息に使用する薬物について説明。非ステロイド性抗炎症薬のと危険性を説明
5	17章　う蝕予防薬 18章　歯内療法薬 19章　歯周疾患治療薬 20章　顎口腔粘膜疾患と薬	齲蝕の発生メカニズム、歯周組織をを理解した上で、齲蝕予防薬、歯内治療薬、歯周治療薬、口腔薬について説明。
6	13章　痛みと薬 14章　局所麻酔薬	痛みのしくみ及び歯科臨床で使用する局所麻酔薬を説明
7	2章　抹消神経系に作用する薬物 3章　中枢神経に作用する薬物	神経の分類を理解し、中枢神経系・抹消神経系、自律神経系・体性神経系の伝達物質を説明。
8	これまでの授業の総復習 定期テスト対策授業	これまでの授業の総復習

【科目名】 栄養と代謝Ⅰ	【担当講師】 倉知　正

【年次・開講期】 1年次・ 前期	【時間】 16 時間	【単位】 1 単位

【授業概要】

栄養と代謝I（基礎生化学）は生物を構成する物質の化学であり、生命・病気の理解に必須の学問である。
生命には、糖質、脂質、タンパク質、補酵素、ビタミン、ホルモンなどの生体分子の質的・量的バランスの上に成り立っており、これらの生体分子の質的・量的バランスは生合成系と代謝系により決定される。本教科では、生命の基本単位である細胞の構造、生体分子の構造・性質、細胞内の遺伝情報の流

【実務経験有】

群馬医療福祉大学　医療技術学部

【到達目標】

（1）細胞の基本構造と細胞小器官の働きを理解する。（2）生体高分子の基本的な構造と機能を理解する。（3）糖質・脂質・タンパク質の代謝の基礎について理解する。（4）遺伝情報の流れを理解する。（5）恒常性を保つ仕組みを理解する。

【教科書】

歯科衛生学シリーズ　人体の構造と機能２　生化学・口腔生化学（医歯薬出版）

【参考図書】

【授業方法】

講義

【評価方法】

全授業終了後に講義内容の理解度を試験（マークシート形式・記述形式）により評価し、60点以上を合格とする。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	人体の構成要素	細胞の構造と細胞小器官、生体における水、生体構成要素と栄養素
2	人体における化学反応	消化と吸収、酸素の運搬と二酸化炭素の排出、酵素
3	糖質の構造と代謝（1）	エネルギー代謝、解糖、グリコーゲン
4	糖質の構造と代謝（2）	クエン酸回路、電子伝達系
5	脂質の構造と代謝	脂肪酸の酸化（β 酸化）、脂肪の合成
6	タンパク質とアミノ酸の代謝	アミノ酸の代謝分解、糖質・脂質・タンパク質代謝の相互関連
7	遺伝子とタンパク質合成	DNAと遺伝子、タンパク質の合成
8	人体における恒常性の維持	恒常性（ホメオスタシス）、血液の緩衝能と血糖値、ホルモン

【科目名】 栄養と代謝Ⅱ		【担当講師】 石原 宏一
【年次・開講期】 1年次・前期	【時間】 16時間	【単位】 1単位

【授業概要】

口腔組織の構成成分、唾液、歯垢の構成成分を学ぶ。

【実務経験有】

歯科医師、医学博士：臨床経験24年

【到達目標】

1 食生活と咀嚼、食品とう蝕誘発性の相関性について理解する。

2 結合組織、歯の構成成分、石灰化の仕組みについて理解する。

3 唾液、歯の堆積物、う蝕と歯周疾患の免疫学の基本知識を習得する。

【教科書】

最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学 医歯薬出版株式会社

【参考図書】

【授業方法】

講義

【評価方法】

全授業の終了後，マークシート試験を行う。合計得点(100点満点)の60点以上の者を合格とする。

出席実績、授業態度、授業中に出す課題(レポート等)の提出実績・内容により減点を科す場合がある。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	1章 歯と歯周組織の生化学 1、歯と歯周組織の生化学 2、結合組織の生化学	① 結合組織の組成と機能を学ぶ ② 繊維状タンパク質（コラーゲン）とは何かを理解する ③ プロテオグリカンの化学的性質・生理的機能及び代謝について ④ 接着性タンパク質とは何か理解する ⑤ 細胞外マトリックスの分解過程を理解する
2	3、歯の生化学 2章 硬組織の生化学 1、血清中のカルシウムとリン酸	⑥ 歯の組成、歯の無機成分、有機成分の特徴について学ぶ ① 血清中のカルシウムとリン酸濃度と、その調節機構について理解する
3	2、骨形成と石灰化の仕組み	② 骨形成のメカニズム ③ 骨と歯を構成する無機成分と有機成分
4	3、骨吸収と骨リモデリング 4、歯の脱灰と再石灰化	④ 骨芽細胞と破骨細胞の特徴を学ぶ ① 酸による歯の脱灰とキレート作用について理解する
5	3章 唾液の生化学 1、唾液の組成と機能	① 唾液の組成と機能について学ぶ ② 唾液の無機質・有機質について学ぶ ③ 唾液の低分子量成分について学ぶ
6	4章 プラークの生化学 1、プラーク	① プラークとバイオフィルムについて理解する ② プラークの形成について理解する ③ プラークによる糖からの酸産生過程について理解する

回	授業項目	授業内容
7	2、プラークによるう蝕発症機構 　－多因子性疾患としてのう蝕－	④　う蝕の特徴 ⑤　プラークとう蝕との関連性を学ぶ ⑥　唾液とう蝕との関連性を学ぶ ⑦　食生活とう蝕との関連性を学ぶ ⑧　う蝕予防法（フッ化物・代用甘味料）について学ぶ
8	3、プラークによる歯周疾患発症機構	⑨　細菌に由来する歯周組織傷害因子 ⑩　生体防御機構と炎症反応について学ぶ ⑪　歯周病の発生過程 ⑫　プラークや舌苔による口臭発生機構、歯石について学ぶ

【科目名】	栄養と代謝Ⅲ	【担当講師】	大美賀 由美子

【年次・開講期】 1年次・前期	【時間】 16時間	【単位】 1単位

【授業概要】

歯科衛生士が栄養学を学ぶ意義を知る。

各栄養素の種類と、その特徴や働きについて学ぶ。

栄養素の消化・吸収について学ぶ。

【実務経験有】

管理栄養士　足利製菓専門学校非常勤講師（公衆衛生学）

【到達目標】

国家試験合格のための知識を得る。

その知識を自分自身や家族、患者さんの健康管理に役立てることができるようになる。

【教科書】

人体の構造と機能3　栄養学

【参考図書】

日本人の食事摂取基準　基礎栄養学

【授業方法】

講義　1回毎に「復習シート」を配布し、各自の学習に役立てる。

【評価方法】

マークシート式の試験を行い、100点満点中60点以上を合格とする。

不合格者は再試験。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	p10 糖質p13～p18	歯科衛生士が栄養学を学ぶ意義 糖質の種類とはたらき　エネルギーの産生　血糖値
2	脂質 p18～p23	脂質の種類とはたらき 飽和脂肪酸　不飽和脂肪酸　必須脂肪酸
3	タンパク質 p23～p28	タンパク質の種類とはたらき 必須アミノ酸　生物価　正味タンパク質利用率　アミノ酸スコア
4	ビタミン p28～p33	ビタミンの種類とはたらき 脂溶性ビタミン　水溶性ビタミン　欠乏症　過剰症
5	ミネラル p34～p38	ミネラルの種類とはたらき 多量ミネラル　微量ミネラル　欠乏症　過剰症
6	食物繊維　水 p38～p42	食物繊維の種類とはたらき 水のはたらき　水の出納　脱水と浮腫
7	栄養素の消化・吸収 p43～p51	消化の種類、過程 吸収のメカニズム
8	栄養素別の消化・吸収 p52～p60	栄養素の体内動態 栄養素別の消化・吸収

【科目名】 保健生態学Ⅰ	【担当講師】 松本　光史

【年次・開講期】 1年次・後期	【時間】 30時間	【単位】 2単位

【授業概要】

公衆衛生学は、人間の健康問題を様々な要因の相互関係で考えていくことを目的とする。そのためには、地球、国、地域、集団における現状を正確に把握し、それを解析する能力が必要となってくる。本教科では、この力を養うために、周囲の環境、疾病の予防方法、さらには地域・国家・世界におけ保健機構について学習する。ここから健康を阻害する要因を多方向から観察し、集団に対する予防方法を実施するための基礎的能力を習得することを目的とする。

【実務経験有】

阪東歯科クリニック：歯科医師

【到達目標】

1　わが国の健康水準の現況を理解する。

2　公衆衛生のための制度・対策の概要を理解する。

3　生活環境と疾病との関係、環境汚染の防止に関する基本的知識を習得する。

【教科書】

最新歯科衛生士教本　保健生態学　医歯薬出版株式会社

【参考図書】

【授業方法】

講義形式(教科書，プリント，スライド)および問題解決型授業の形式を適宜取り入れる

【評価方法】

全授業の終了後，マークシート試験及び記述試験を行う。60点以上の者を合格とする。

出席実績、授業態度により減点を科す場合がある。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1・2	総論 1. 健康とは何か 2. 障害に対する接近法 3. 健康づくり運動の変遷 4. 広義の予防とは 5. 国際保健 6. プライマリーヘルスケア 7. ヘルスプロモーション 8. 医療の倫理	1.　世界保健機構（WHO）の健康の定義を言えるようにする 2.　ICFを理解し、ICIDHとの違いを説明できるようにする 3.　健康日本21を知り、その概略を説明できるようにする 4.　LeavellとClarkの１次予防、２次予防、３次予防を理解し、具体例をあげて説明できるようにする 5.　プライマリーヘルスケアについて説明できるようにする 6.　ヘルスプロモーションについて説明できるようにする 7.　ニュルンベルグ綱領、リスボン宣言、ヘルシンキ宣言、ジュネーブ宣言について説明できるようにする
3・4	疫学 1. 有病率、罹患率 2. 疫学研究の概念 3. 疫学の実際 4. コホート研究 5. 患者対照研究	1.　罹患率と有病率の違いを説明できるようにする 2.　記述疫学の目的と方法を説明できるようにする 3.　分析疫学の目的と方法を説明できるようにする 4.　横断研究と縦断研究の違いを説明できるようにする 5.　患者対照研究について具体例をあげて説明できるようにする 6.　コホート研究について具体例をあげて説明できるようにする 7.　相対危険度について説明できるようにする 8.　寄与危険度について説明できるようにする 9.　オッズ比について説明できるようにする

回	授業項目	授業内容
5・6	人口Ⅰ 1. 人口静態統計 2. 人口動態統計 3. 国勢調査 4. 我が国の人口構造の推移 5. 人口ピラミッドとは何か 6. 人口指標とは何か 7. 世界人口とは何か 8. 出生率について	1. 人口動態統計と人口静態統計の違いを説明できるようにする 2. 国勢調査について説明できるようにする 3. 静態統計、動態統計から分かるものを説明できるようにする 4. 人口ピラミッドの形を分類し、それぞれの形の特徴、兆候について我が国の状況も含め説明できるようにする 5. 年齢別人口構造と計算式を理解し、それを使って我が国の人口構造推移（高齢化）を説明できるようにする 6. 世界人口の推移を説明できるようにする 7. 再生産率について説明できるようにする 8. 合計特殊出生率について、我が国の状況を含め説明できるようにする 9. 総再生産率について、我が国の状況を含め説明できるようにする 10. 純再生産率について、我が国の状況を含め説明できるようにする 11. 将来的な我が国の人口状態の予想と、少子化の要因について説明できるようにする
7・8	人口Ⅱ 1. 死亡率 2. 死因分類 3. 疾病構造の変化 4. 死産、乳児死亡、周産期死亡、妊産婦死亡 5. 生命表の見方 6. 健康寿命	1. 国民死因の推移を説明できるようにする 2. 生活習慣病についてそれぞれの原因、状態を説明できるようにする 3. 各動態統計指標と定義を説明できるようにする（死亡率、PMI、早期新生児死亡率、新生児死亡率、乳児死亡率、周産期死亡率、死産率、死産比） 4. 生命表とは何かを説明できるようにする 5. 健康寿命とは何かを説明できるようにする 6. 前半の講義内容についての復習問題演習、解説
9・10	感染症 1. 感染の原因、経路 2. 感染予防について 3. 感染症の分類	1. 感染源について例を挙げて説明できるようにする 2. 感染経路について分類が出来、例を挙げて説明できるようにする 3. 免疫について説明できるようにする 4. 感染経路対策について例を挙げて説明出来るようにする 5. 感染源対策について例を挙げて説明できるようにする 6. 宿主の感受性対策について例を挙げて説明できるようにする 7. 予防接種（ワクチン）を分類できるようにする 8. 新興感染症、再興感染症を例をあげて説明できるようにする 9. A型B型C型肝炎を説明できるようにする 10. 指定感染症について例を挙げて説明できるようにする
11・12	食品と健康 1. 栄養所要量 2. 国民健康・栄養調査 3. 食中毒 4.食品保健	1. 栄養所要量について説明できるようにする。 2. 推奨平均必要量、推奨量、目安量、許容上限摂取量を習慣的な摂取量のグラフを用いて説明出来るようにする 3. 我が国の栄養摂取状況について説明できるようにする 4. 各種の目標摂取量について説明出来るようにする 5. 細菌性食中毒を分類し、その種類、違いについて説明できるようにする 6. ウィルス性食中毒を分類し、その種類、違いについて説明できるようにする 7. 特別用途食品、保健機能食品の種類や違いについて説明できるようにする

回	授業項目	授業内容
13・14	健康と環境Ⅰ 1. 生活環境 2. 物理環境 3. 科学環境	1.　ホメオスタシスを説明できるようにする 2.　正常空気成分について説明できるようにする 3.　空気の異常成分と健康被害を説明できるようにする 4.　感熱環境の測定器具と評価指数についてしる （アスマン通風乾湿計、カタ寒暖計、黒球寒暖計） 5.　不快指数とは何かを説明できるようにする 6.　感覚温度とは何かを説明できるようにする 7.　飲料水に求められる要件を言えるようにする 8.　浄水法を分類し説明できるようにする 9.　下水の水質基準と処理法を分類し説明できるようにする
15	健康と環境Ⅱ 1. 地球環境 2. 廃棄物 3. 環境リスクと事故	1.　気候型を分類できるようにする 2.　オゾン層破壊、温暖化など地球環境について説明できる ようにする 3.　公害事件の原因物質と症状を説明できるようにする 4.　大気汚染物質と症状を説明出来るようにする 5.　廃棄物処理とくに医療廃棄物の分別処理を説明できる ようにする

【科目名】 保健生態学Ⅱ	【担当講師】 外丸　雅晴

【年次・開講期】 1年次・前期	【時間】 30時間	【単位】 2単位

【授業概要】

口腔疾患を予防し、口腔の健康を保持増進するための知識と技術を習得する

口腔疾患予防のために歯科衛生士として重要とされる判断能力、問題解決能力を習得する

医療人としての医療哲学の形成に努め、歯科衛生士というプロフェッションとしての自覚を持つ

【実務経験有】 有　歯科医師としての実務経験２５年。歯科診療所、大学病院、総合病院に勤務
群馬県内歯科衛生士養成校での講師歴２３年　博士（歯学）　労働衛生コンサルタント

【到達目標】

口腔衛生学を学ぶ上で必要とされる自然科学、基礎医学、基礎歯学の知識を十分に体得する

う蝕と歯周病を中心に、歯科疾患の予防法についてその基礎と理論を理解する

う蝕と歯周病を中心に、その予防を公衆衛生および個人管理の中で実施する方法について

理解する年齢に応じたターゲット疾患を理解し、ライフステージ別の口腔保健対策を理解する

【教科書】

全国歯科衛生士教育協議会監修　保健生態学　第3版　医歯薬出版

【参考図書】

安井利一・宮崎秀夫他編集　口腔保健・予防歯科学　医歯薬出版

天野敦雄・久保庭雅恵著　歯科衛生士のためのカリオロジーダイジェスト　クインテッセンス出版

天野敦雄著　歯科衛生士のための21世紀のペリオドントロジー ダイジェスト　クインテッセンス出版

日野原重明著　医学するこころ――オスラー博士の生涯　岩波現代文庫

【授業方法】

教科書、配布資料、スライドおよび映像資料を使用する

【評価方法】

定期試験を実施する。100点満点とし、60％以上の得点のものを合格とする。

問題形式は選択形式と記述形式を併用する

不合格者には追試験を実施する。追試験は記述形式のみとする

レポート、豆テストの結果は成績評価に含めない（原則として定期試験のみで評価する）

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1・2	総論	・口腔の健康の定義 ・歯、口腔の健康保持・増進の手段 ・歯と歯周組織の構造と働き ・口腔粘膜、舌、顎関節などの構造と働き ・唾液腺の種類と唾液の働き ・歯、口腔の形成及び発育と発達 ・歯、口腔の形成異常 ・歯、口腔の機能 ・口腔と全身の健康の関連 ・歯・口腔の付着物と沈着物
3・4	口腔清掃	・口腔清掃の意義 ・口腔清掃法の種類 ・人工的清掃法の分類と用具 ・不適切な口腔清掃法 ・歯磨剤および洗口剤の種類 ・歯磨剤および洗口剤の組成

回	授業項目	授業内容
5	歯科疾患の疫学	・う蝕の疫学 ・歯周疾患の疫学 ・その他の歯科疾患の疫学
6・7	う蝕の予防	・う蝕発生のメカニズム ・う蝕の発生要因 ・う蝕活動性試験 ・リスクに応じたう蝕予防 ・う蝕発生の1次、2次、3次予防 ・Minimal Intervention Dentistry ・発生要因に対するう蝕予防法
8～10	フッ化物によるう蝕予防	・人体へのフッ化物の作用 ・生体におけるフッ化物の代謝 ・フッ化物の毒性と正しい対処法 ・フッ化物応用によるう蝕予防法 ・フッ化物のう蝕予防メカニズム ・ライフステージに応じたフッ化物応用
11・12	歯周疾患の予防	・健康な歯周組織の構造 ・歯周疾患の炎症の広がりと症状 ・歯周疾患の種類と原因 ・歯周疾患のリスクファクター ・歯周疾患の全身への影響 ・歯周疾患の予防法 ・歯周疾患の治療法 ・定期的な歯周疾患予防処置
13	その他の疾患と異常の予防	・口内炎 ・口腔癌 ・不正咬合 ・顎関節症 ・歯の形成不全 ・口臭症 ・口腔乾燥症
14・15	ライフステージごとの 口腔保健管理	・母子口腔保健 ・小児期の口腔保健 ・成人期・老年期の口腔保健 ・健康日本21と歯と口の健康 ・タバコと歯と口の健康 ・講義のまとめ

【科目名】	保健生態学Ⅲ	【担当講師】	野中　幸治

【年次・開講期】　1年次・後期	【時間】　16時間	【単位】　1単位

【授業概要】

健康に関わる地域の役割、ヘルスプロモーションの概念、母子保健や学校保健などの保健制度について学ぶ

【実務経験有】

臨床にて歯科医業を行いつつ、地域保健活動（学校医、1.6健診、3歳児健診）などに従事

歯科医師

【到達目標】

1　地域社会と健康との関わりの重要性、地域保健の考え方と制度を理解する

2　新しい健康観であるヘルスプロモーションの考え方と歯科における取組みを理解する

3　年代や職業ごとの保健制度と歯科保健について理解する

【教科書】

歯科衛生士教本　保健生態学

【参考図書】

衛生学　公衆衛生学

【授業方法】

講義

【評価方法】

全講義終了後、試験を行う。合計得点（100点満点）の60点以上の者を合格とする。

出席実績、授業態度、授業中に出す課題（レポート等）の提出実績・内容も成績に含む。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	地域社会と地域保健 地域社会と健康対策の考え方を学ぶ 地域保健を担う組織の仕組みを学ぶ	地域と健康との関連性について ライフスタイルと歯科疾患との関連性について 保健所、市町村保健センターについて
2	地域社会の新たな概念 新しい健康観であるヘルスプロモーションについて理解する	ヘルスプロモーションとは ノーマライゼーションとは 歯科口腔保健法について
3	母子保健 母子保健の意義と概念を知り母子歯科健診について理解する	母子保健制度と母子健康手帳について 3歳児歯科健康診査について 1歳6か月歯科健康診査について
4	学校保健 学校保健の活動と組織について理解する	学校における歯科保健問題について 学校保健職員と役割について 学校保健の3領域について
5	成人保健 成人歯科保健の現状と保健事業について学ぶ	生活習慣病と特定健康診査について 高齢者医療確保法、健康増進法の保健事業について
6	産業保健 老化と健康との関わりについて学ぶ	労働基準法、労働安全保障保健法、労働者災害補償保険法について 職業性歯科疾患について 歯科健康診断について
7	老人保健 産業保健の概念と職業性疾病について学ぶ	老化と健康について 成人・老人保健関係法規について 介護と口腔ケアについて
8	精神保健 精神障害者の医療について学ぶ 国際保健 世界の歯科疾患の状況について理解する	精神保健について 精神障害者の医療制度について 世界の国々における保健医療の考え方と歯科疾患状況について

【科目名】 保健情報統計学	【担当講師】 浅沼　美香

【年次・開講期】 1年次・後期	【時間】 16 時間	【単位】 1単位

【授業概要】

歯科衛生士が活躍する場には臨床だけでなく、その行政での地域活動でも活躍が期待されます。
その中で、疫学研究、歯科疾患の指数、統計方法などの知識の獲得。

【実務経験有】

浅沼歯科医院院長（歯科医師）

【到達目標】

疫学の基礎知識を学び、実際の数値を指数化したり、集計、統計作業を実践できる能力を
身に付けます。

【教科書】

医歯薬出版株式会社「保健情報統計学」
最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関る人間と会社の仕組み３」

【参考図書】

随時紹介

【授業方法】

講義

【評価方法】

客観試験　・　提出物　・　授業態度　・　実習態度

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	疫学	疫学のすすめ方
2	齲蝕の指数	DMF指数、他のう蝕指数、DMFT集計練習
3	歯周疾患の指数	CPI
4	CPI実習・歯科検診	相互実習、歯科検診介助実習
5	CPI実習	相互実習
6	歯垢・歯石の指数、その他の指数	OHI指数・PCR・不正咬合の指数、フッ素症の指数
7	歯科衛生統計1	集計作業
8	歯科衛生統計２	歯科衛生統計まとめ

【科目名】	衛生行政、社会福祉学	【担当講師】	内山康久

【年次・開講期】 1年次・後期	【時間】 16時間	【単位】 1単位

【授業概要】

講義を通して基本となる衛生行政、社会福祉、社会保険について理解する。

また, 国家試験に準じた試験問題を通じて国家試験合格基準レベル以上の知識を身に付ける。

1、 各法律、制度について理解し、正確に述べることができる。

2、 各テーマの沿革、目的、組織等正確に把握、理解し、正確に述べることができる。

3、 医療制度・動向、社会保障、社会福祉を正確に理解し、述べることができる。

【実務経験有】

有資格:社会福祉士、介護支援専門員

在宅介護支援センターソーシャルワーカー、居宅介護支援事業所介護支援専門員、特養ホーム生活相談員ほか

【到達目標】

講義を通して歯科衛生士となるべく知識を身に付け、正確に制度、沿革、法規を学び基礎的を身に付ける。高齢社会に鑑み、近年の試験には介護保険制度に焦点を当てる内容も見受けられます。現在の法規、制度を理解したうえで各テーマの内容を正確に把握する。今後の基礎科目あるいは臨床科目の基礎となる学力を身に付ける。

【教科書】

保健 ・ 医療 ・ 福祉の制度 医歯薬出版株式会社

【参考図書】

・保健・医療・福祉の制度 医歯薬出版株式会社

・国家試験対策2025年対策 歯科衛生士国試問題研究会

【授業方法】

配布資料 ・ 講義PowerPoint

【評価方法】

紙面テストにて6割以上の点数で合格とする。※ただし、不合格者には再テストを行う。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	オリエンテーション ①医療制度と歯科衛生士について	自己紹介、シラバスの説明と進行について わが国の医療制度、医療法、歯科医師法等
2	②医療制度と歯科衛生士について	歯科衛生士法、歯科技工士法等
3	①医療関係職種について	歯科医療と関わる医療関係者、保健師助産師看護師法、臨床検査技師等に関する法律等
4	②医療関係職種について	放射線技師法、言語聴覚士法、薬剤師法、その他医療関係職種に係る法律等
5	①その他の関係法規	地域包括ケアシステム、地域保健に関する法律、歯科口腔保健の推進に関する法律等
6	②その他の関係法規	薬事に関連する法規、その他の衛生法規等
7	社会保障	社会保障とは、社会保険とは、社会福祉等
8	医療の動向、テスト対策	国民の健康状態と受療状況、医療施設、医療従事者、国民医療費

【科目名】	歯科保存学Ⅰ	【担当講師】	小野里　優

【年次・開講期】	2年次・前期	【時間】	26時間	【単位】	1単位

【授業概要】

歯科学における歯科保存学について教授する。
歯科の臨床科目との関わりを重視し、疾病の原因、治療法、予防法について学ぶ。
歯科医療の本質について理解する。
医療スタッフとしての自覚を持ち、パラデンタルとの関わりについて学ぶ。

【実務経験有】

オズデンタルクリニック前橋院長（歯科医師）

【到達目標】

1、保存修復学で扱う疾患を理解する
2、う蝕の発症要因と進行を理解する
3、歯の欠損の修復方法を理解する
4、歯の修復に用いる器材を理解する
5、歯に硬組織疾患の予防、検査、診断、治療を体系的に理解する
6、口腔の健康と審美について総合的に理解する

【教科書】

医歯薬出版株式会社　　保存修復・歯内療法

【参考図書】

クインテッセンス出版　歯科衛生士

【授業方法】

授業・実習・口頭試問を体系的に実施する。

【評価方法】

定期テスト60点以上で総合的に評価する。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	歯科保存学の概要	歯科保存学の知識・技術体系を理解する。
2	医療面接 口腔診査 現症の検査	相互実習により口腔内を観察する。 患者に接する心構えを体得する。 現症と疾患の関係を理解する。
3	歯の硬組織疾患と発育異常	保存修復学の治療対象となる疾患を学ぶ。 疾患の原因や症状について理解する。
4	う蝕と形成形態	う蝕の発生から経過について学ぶ。 適切な形成形態について理解する。
5	歯髄とう蝕の病態	う蝕の進行と組織への波及について学ぶ。 歯髄保護の目的・方法について学ぶ。
6	アマルガム修復 グラスアイオノマーセメント修復	組成と種類を理解する。 長所・短所・適応症について学ぶ。
7	コンポジットレジン修復	コンポジットレジンの組成と種類を理解する。 長所・短所・適応症について学ぶ。 歯牙模型にて実習し、体系を把握する。
8	鋳造修復 ラミネートベニア修復 歯牙漂白	具体的術式について習熟する。 長所・短所・適応症について学ぶ。

回	授業項目	授業内容
9	口腔組織のライフステージ	口腔組織のライフステージを認識する。 歯科的健康を阻害する原因について学ぶ。 予防について検討する。
10	歯科保存学と解剖学	歯牙の解剖学的形態を習得する。
11	歯科保存学と歯内療法学	臨床上の関わりを学ぶ。
12	歯科保存学と歯科補綴学	臨床上の関わりについて学ぶ。
13	歯科保存学と臨床	臨床上の病態について学ぶ。
14	う蝕についての総括	う蝕についての最新知見
15	診療補助学と歯科保存学	健康観を育成する。 臨床と歯科衛生士の関わりについて学ぶ。 歯科衛生士の理想像について検討する。

【科目名】	歯科保存学Ⅱ	【担当講師】	高橋　智幸

【年次・開講期】　2年次・前期	【時間】　26時間	【単位】　1単位

【授業概要】

歯の硬組織疾患から継発して起こる歯髄疾患および根尖性歯周組織疾患を対象として
その予防と治療を学び、各疾患の原因、分類を把握し、疾患と治療法を学ぶ。

【実務経験有】

高橋歯科医院開設・院長（歯科医師）

【到達目標】

歯髄疾患および根尖性歯周組織疾患の原因、分類を把握し、疾患と治療法を関連づけて理解する

【教科書】

最新歯科衛生士教本「保存修復・歯内療法」　（医歯薬出版）

【参考図書】

【授業方法】

講義形式（教科書、プリント、スライド）および問題解決型授業の形式を適宜取り入れる

【評価方法】

全講義の終了後、試験を行う。60点以上の者を合格とする。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	歯内療法の概要 1. 歯内療法学の目的 2. 象牙質知覚過敏症 3. 歯髄疾患の概要と原因	1. 歯内療法学の目的を学ぶ 2. 象牙質知覚過敏症の原因と症状を学ぶ 3、歯髄疾患の概要と原因を学ぶ
2	1.歯髄疾患の分類と症状 2.歯髄疾患の処置方針 3.歯内療法特有の検査と診断	1. 歯髄疾患の分類と症状を学ぶ 2. 歯髄疾患の処置方針を学ぶ 3. 歯内療法特有の検査と診断を学ぶ
3	1. 根尖性歯周疾患の概要と原因 2. 根尖性歯周疾患の分類と症状 3. 根尖性歯周疾患の処置方針 4. 抜髄法、感染根管治療の術式の概要	1. 根尖性歯周疾患の概要と原因を学ぶ 2. 根尖性歯周疾患の分類と症状を学ぶ 3. 根尖性歯周疾患の処置方針を学ぶ 4. 抜髄法、感染根管治療の術式の概要を学ぶ
4	歯髄保存療法 1. 歯髄保存療法の目的 2. 歯髄鎮痛消炎療法と歯髄鎮痛消炎薬 3. 覆髄法 間接覆髄法　直接覆髄法 暫間的間接覆髄法（IPC法） 4. 歯髄保存療法の診療の流れ	1. 歯髄保存療法の目的を学ぶ 2. 歯髄鎮痛消炎療法と歯髄鎮痛消炎薬を学ぶ 3. 間接覆髄法　直接覆髄法 暫間的間接覆髄法（IPC法）を学ぶ 4. 歯髄保存療法の診療の流れを学ぶ
5	歯髄の除去療法 1. 歯髄除去療法とは 2. 生活断髄法 3. 抜髄法	1. 歯髄除去療法を学ぶ 2. 生活断髄法の概要・適応症・術式を学ぶ 3. 抜髄法の概要・適応症・術式を学ぶ
6	根管治療 1. 根管治療の概要 2. 根管治療の術式	1. 根管治療の概要を学ぶ 2. 根管治療におけるエックス線写真撮影の 意義と使用器材の種類と準備を学ぶ 3. ラバーダム防湿に使用する器材と術式を学ぶ 4. 髄室開拡と根管口の漏斗状拡大に使用する 器材と術式を学ぶ
7	根管治療 1. 根管治療の術式	1. 根管長測定の意義と測定法を学ぶ 2. 根管の拡大形成・根管消毒・仮封に使用する 器材と術式を学ぶ

回	授業項目	授業内容
8	根管充填	1. 根管充填の目的・時期を知る 2. 根管充填材の所要性質と種類を学ぶ 3. 根管充填用器具の種類と特徴を学ぶ
9	根管充填 根未完成歯の根管処置	1. 根管充填の種類・術式・特徴を学ぶ 2. 根未完成歯の治療法を学ぶ
10	外科的歯内療法	1. 膿瘍切開・根尖掻爬・根尖切断 歯根切断・歯根分離・ヘミセクションについて学ぶ 2. 歯の再植法・移植法を学ぶ
11	歯の外傷	1. 歯の外傷の分類と処置を学ぶ 2. 完全脱臼歯の保存方法を学ぶ
12	歯内療法における安全対策	1. 治療用器具の根管内破折を学ぶ 2. 根管治療時の根管壁穿孔を学ぶ 3. 皮下気腫を学ぶ 4. 根管治療器具の誤嚥を学ぶ 5. 薬剤による皮膚・衣類汚染の対処法を学ぶ
13	歯内療法における歯科衛生士の役割 歯の漂泊	1. 歯内療法に使用する器材・薬剤の管理を学ぶ 2. 歯内療法処置における患者への説明と指導を学ぶ 3. 歯の漂泊の種類・手順を学ぶ

【科目名】 **歯周治療学**	【担当講師】 高井　靖子

【年次・開講期】　2年次・前期	【時間】　　26時間	【単位】　　1単位

【授業概要】

歯科衛生士として必要な歯周病学・歯周治療学についての知識を習得します。
歯周組織の解剖・歯周疾患の原因や、検査法や分類、診断法・処置法について講義を通じて、
歯周疾患に対する歯科衛生士の関わりについて理解できることを目標とします。

【到達目標】

1、歯周病の原因、病態を理解できる。

2、歯周病に関わる検査法を理解したうえで、正しく行うことができる。

3、歯周治療の流れを説明でき、その上でスケーリング・SRP等の治療技術を習得する。

また歯周外科手術の介助ができる。

【実務経験有】

高井歯科クリニック：歯科医師（歯周病専門医）

【教科書】

最新歯科衛生士教本　歯周病学　（医歯薬出版）

【参考図書】

特になし

【授業方法】

スライド・板書と書き込み式ワークシートの併用

【評価方法】

講義終了時の筆記試験

出席率・授業態度が著しく悪い場合は個別対応

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	歯周病学とは	歯周病とは 歯周病の有病率 歯周治療における歯科衛生士の役割
2	歯周組織の正常解剖	歯周組織とは 歯肉の分類・付着様式 歯周組織の加齢現象
3	歯周病の分類	歯周病の定義 歯肉炎と歯周炎 咬合性外傷とは
4	歯周病の原因	歯周病原性細菌 リスクファクターとは 歯周病における最近の病因論
5	歯周治療の流れ・歯周病の検査①	歯周治療における4つのフェーズ 歯肉の視診
6	歯周病の検査②	プロービングポケットデプス・アタッチメントレベルとは 歯の動揺度、角化歯肉幅・付着歯肉幅 検査の値が示すこと
7	歯周病の検査③	エックス線写真の種類 デンタルエックス線写真とは デンタルエックス線写真上での歯周病の変化（読影）
8	歯周基本治療①	歯周基本治療とは何か 咬合調整・暫間固定・応急処置 基本治療でどこまで治るのか

回	授業項目	授業内容
9	歯周基本治療②	スケーリング・ルートプレーニングとは 使用器具・方法 スケーリング・ルートプレーニングの実際
10	歯周外科手術①	歯周外科治療とは何か 歯周外科治療治療を理解するための専門用語の理解 歯周外科治療の流れ
11	歯周外科手術②	歯周外科治療の個々の術式について理解 切除療法・組織付着療法・歯周組織再生療法 歯周外科手術実習の説明
12	SPT・メインテナンス	SPTとメインテナンスの定義の違い SPT・メインテナンスの実際 SPT・メインテナンスの効果
13	まとめ（予備日）	インプラント周囲炎 全身疾患と歯周病の関連（ペリオドンタルメディスン） 総復習・質問等

【科目名】	**口 腔 外 科 学**	【担当講師】	中里　隆之

【年次・開講期】　2年次・前期	【時間】　26 時間	【単位】　1単位

【授業概要】

口腔外科に関する知識を修得し、単に歯の健康管理だけではなく、より広く口腔全体の健康管理ができるようになることを目的とする。

【実務経験有】　新潟大学医歯学総合病院口腔再建外科勤務を経てなかざと歯科医院開設

臨床経験25年　歯科医師　歯学博士

【到達目標】

口腔領域の奇形や変形症、外傷、口腔粘膜疾患、歯に起因する化膿性炎症、顎関節疾患、顎骨の内外に形成される嚢胞や腫瘍、唾液腺疾患、血液疾患、口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群などに関する基礎知識を習得し、口腔外科臨床における歯科衛生士の役割を理解する。

【教科書】

「第2版　口腔外科学・歯科麻酔学」医歯薬出版

【参考図書】

口と歯の病気マップ　齊藤力　医歯薬出版

動画とイラストで学ぶ抜歯のテクニック　齊藤力、高野伸夫　医歯薬出版

【授業方法】

教科書、スライド、プリントによる講義形式

【評価方法】

全授業終了後、記述及び国家試験と同じ形式で試験を行う。

60点以上の者を合格とする。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	口腔外科学の概要 先天異常と発育異常1	顎口腔領域の特徴、口腔外科学の特徴と対象疾患等 歯の異常 口腔軟組織の異常
2	先天異常と発育異常2	口唇裂・口蓋裂 顎変形症
3	損傷	歯の外傷 軟組織の損傷 骨折
4	口腔粘膜疾患1	潰瘍を主徴とする疾患 水疱を主徴とする疾患 紅斑・びらんを主徴とする疾患
5	口腔粘膜疾患2	白斑を主徴とする疾患 色素沈着 部位特有の疾患
6	炎症	感染症による炎症 歯槽部の炎症、顎骨の炎症 顎骨周囲組織の炎症、特異性炎
7	嚢胞	嚢胞とは 顎骨に発生する嚢胞 顎骨以外に発生する嚢胞、偽嚢胞
8	腫瘍および腫瘍類似疾患1 腫瘍および腫瘍類似疾患2	良性腫瘍 悪性腫瘍、腫瘍類似疾患
9	顎関節疾患 唾液腺疾患	顎関節脱臼、顎関節症、顎関節強直症 唾液腺の概要、炎症性疾患、唾石症 唾液腺腫瘍、口腔乾燥症

回	授業項目	授業内容
10	神経系疾患 血液疾患 口腔心身症	三叉神経痛、顔面神経麻痺 神経障害性疼痛、オーラルディスキネジア 貧血、白血病 出血性素因、血液疾患における口腔衛生管理 舌痛症、歯科恐怖症 口腔セネストパチー、非歯原性疼痛
11	口腔外科診療の実際1	診察と診断 歯科診療で問題となる全身疾患
12	口腔外科診療の実際2 口腔外科診療の実際3	口腔外科手術の準備 手術の基本手技 口腔外科小手術1、口腔外科小手術2
13	口腔外科診療に実際4 総復習とまとめ	周術期口腔機能管理

【科目名】	歯科補綴学	【担当講師】	伏嶋　陽一

【年次・開講期】	2年次・前期	【時間】	26～30 時間	【単位】	1単位

【授業概要】

歯科補綴の基礎知識、補綴の実際、歯科衛生士の役割を学ぶ。
補綴歯科治療における必要不可欠な基礎知識を教科書に沿いながら解説する。
実際の補綴歯科治療の内容を理解できるようにする。また、実際の治療に用いる歯科材料で実習を行う。
補綴歯科治療における歯科衛生士の役割と、その重要性の理解と知識の習得を目標とする。

【実務経験有】

ふせじま歯科医院　院長

【到達目標】

補綴歯科治療の概要を理解する。　歯科補綴治療の内容を理解し、様々な治療法を覚える。
補綴歯科治療における歯科衛生士の役割は多岐にわたるため、それを実行できるように理解する。

【教科書】

歯科衛生学シリーズ　歯科補綴学　医歯薬出版株式会社

【参考図書】

【授業方法】

スライド、プリント、レポートを用いた講義。　歯科補綴材料を扱う実技実習。

【評価方法】

全授業終了後、記述式試験を行う。
授業で課す課題（レポート等）の提出が、試験の受験条件とする。
出席実績、授業態度、課題の評価により査定を行い、合計得点（100点満点）の60点以上のものを合格とする。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	補綴歯科治療の概要 目的と意義、方法と補綴装置 補綴における歯科衛生士の役割	顔貌と口腔内の変化　口腔機能と審美性の変化　身体的心理的問題 ADLやQOL、フレイル・オーラルフレイル　口腔機能低下症 診療補助　患者の口腔衛生指導　技工との連携
2	補綴歯科治療の種類 基礎知識1	固定性補綴装置、可撤性補綴装置 歯列、咬合関係、下顎運動、基準平面
3	基礎知識2	顎口腔系の機能、顎関節、顎関節症
4	検査・診査1	医療面接と診察、口腔内診査、画像検査
5	検査・診査2	咬合と顎口腔機能の様々な検査、検査機器
6	クラウン・ブリッジ1	治療の概要と種類、治療の流れ（金属・歯冠色） クラウン治療の概要、ブリッジ治療の概要
7	クラウン・ブリッジ2	治療の流れ（CAD/CAMシステム、デジタルソリューション） 診療補助、併発症とその対応
8	全部床義歯1	治療の流れ、印象採得法、咬合採得法

回	授業項目	授業内容
9	全部床義歯2	顎間関係の記録、顎位の確認 患者指導、診療補助、併発症とその対応 修理　リライン･リベース　メインテナンス
10	部分床義歯1	分類、構成要素 治療の流れ、印象採得法、咬合採得法
11	部分床義歯2	フレームワーク、試適、患者指導、診療補助 併発症とその対応、修理　リライン･リベース メインテナンス
12	インプラント1	治療の概要　インフォームドコンセント、診査･診断 治療の流れと診療補助
13	インプラント2	手術法、印象採得法、上部構造、患者指導 無歯顎症例、併発症とその対応 リコール･メインテナンス
14	特殊な装置1	顎顔面補綴、嚥下･構音補助 顎関節症、ブラキシズム
15	特殊な装置2 機材の管理	スポーツ外傷、睡眠時無呼吸症候群 器具･機材別滅菌、歯科技工との連携

【科目名】	歯科矯正学	【担当講師】	齋藤 卓麻

【年次・開講期】 2年次・前期	【時間】 26 時間	【単位】 1単位

【授業概要】

歯科矯正治療は、歯列と咬合の異常によって起こりうるあらゆる機能的、心理的障害の除去と予防を目的としている。このため、歯科矯正治療に携わるには、歯列や咬合の異常の原因、治療法およびその予防法について習得する必要がある。また、歯科矯正臨床の現場における歯科衛生士の役割は多く、その内容も矯正装置装着時の口腔衛生指導・管理、口腔習癖の指導、矯正装置の使用に関する患者教育など特殊である。

本教科では、歯科矯正臨床の現場で必要となる基礎的知識と能力の習得を目的とする。

【実務経験有】

さいとう矯正歯科開設・院長（歯科医師）

【到達目標】

1、歯列や咬合の異常の原因や成り立ちを理解する。

2、歯列や咬合の異常の予防法を理解し、その指導法を習得する。

3、歯列や咬合の異常の治療法を理解し、治療に使用する器材の取り扱いについて習得する。

【教科書】

最新歯科衛生士教本「歯科矯正学」医歯薬出版

【参考図書】

与五沢矯正研究会「矯正臨床の基礎」クインテッセンス出版

【授業方法】

講義（教科書、プリント、スライド）・実習

【評価方法】

全授業終了後、記述式試験を行う。60点以上の者を合格とする。出席実績、授業態度により減点を科す場合がある。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	◎歯科矯正学概論 1.歯科矯正学とは何かを知る 2.不正咬合による生理的・心理的障害について知る 3.歯科矯正治療の目的とその必要性ついて知る 4.矯正臨床における歯科衛生士の役割ついて知る	・歯科矯正学の定義を言えるようにする ・不正咬合によってどんな障害が起こるかを説明できるようにする ・矯正治療の目的は、不正咬合によって起こる障害の除去であることを理解する ・矯正臨床における歯科衛生士の役割について説明できるようにする ・他の歯科診療における役割 とは内容が異なることを理解する
2	◎咬合 1.下顎位について知る 2.正常咬合とは何かについて知る 3.正常咬合成立の条件いついて知る 4.乳歯列期、混合歯列期における正常咬合について知る 5.歯科矯正治療のゴールとしての咬合について知る	・下顎位には顆頭位と咬合位があることを理解する ・中心咬合位の定義を言えるようにする ・正常咬合の定義を言えるようにする ・正常咬合成立の条件を理解する ・乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期それぞれの時期での正常咬合について理解する ・歯科矯正治療のゴールとしての咬合について理解する

回	授業項目	授業内容
3	◎不正咬合 1.個々の歯の位置異常について知る 2.歯列弓形態の異常について知る 3.上下歯列弓関係の異常について知る 4.不正咬合の分類について知る 5.不正咬合の原因について知る 6.不正咬合の予防について知る	・転位、傾斜、低位、高位、捻転、移転について説明できるようにする ・V字型歯列弓、鞍状歯列弓について説明できるようにする ・上顎前突、下顎前突、上下顎前突、犬歯低位唇側転位、 開咬、叢生、切端咬合、過蓋咬合、正中離開、対称捻転に ついて説明できるようにする ・Angleの分類について、図で説明できるようにする ・不正咬合の原因について理解する ・ディスクレパンシーについて説明できるようにする ・不正咬合の予防法にはどのようなものがあるかを理解する
4	◎口腔習癖 1.口腔習癖の種類と頻度に ついて知る 2.口腔習癖の不正咬合への影響に ついて知る 3.指しゃぶりについて知る 4.舌突出癖について知る 5.筋機能療法について知る 6.習癖除去装置について知る	・口腔習癖の種類について言えるようにする ・口腔習癖の不正咬合への影響について説明できるようにする ・指しゃぶりの発生頻度、原因、不正咬合への影響、歯科に おける指導と治療法ついて説明できるようにする ・舌突出癖の不正咬合への影響、治療法について理解する ・筋機能療法の実際について理解する ・習癖除去装置の効果と問題点を理解する
5	◎矯正力と歯の移動 1.器械力と機能力について知る 2.顎整形力について知る 3.至適矯正力について知る 4.歯の移動によって起こる 組織変化について知る 5.歯の移動様式について知る ◎成長発育 1.頭部・顎・顔面の成長発育に ついて知る 2.上顎と下顎の成長発育に ついて知る 3.歯・歯列の成長発育について知る	・矯正力には器械力と機能力があることを理解する ・機械力、機能力それぞれを利用する矯正装置の種類を 言えるようにする ・顎整形力とはどのようなものかを理解する ・臨床的に適正な矯正力について理解する ・歯の移動によって起こる組織変化について、圧迫側と牽引側 それぞれに起こる変化を説明できるようにする ・傾斜移動、歯体移動、回転、圧下、挺出、トルクについて図を 書いて説明できるようにする ・頭部・顎・顔面の成長発育について理解する ・差動成長について説明できるようにする ・上顎・下顎の成長時期、成長部位、成長方向の違いについて 理解する ・唇顎口蓋裂の発生機序について理解する ・乳歯、永久歯の萌出時期について説明できるようにする ・歯・歯列の成長発育時期にみられる下記項目について説明 できるようにする 霊長空隙 ターミナルプレーン 発育空隙 リーウェイスペース アグリーダックリングステージ
6	◎矯正診断に関する知識 1.診断に必要な資料について知る 2.症例分析法について知る 3.模型分析について知る 4.頭部エックス線規格写真分析に ついて知る 5.治療方針の立て方について知る	・診断に必要な以下の資料から何を知るかを理解する カルテ、問診票 顔面写真 口腔内写真 口腔模型 口腔内X線写真 顎関節X線写真 頭部X線規格写真 顎機能検査 ・模型分析で計測する項目について理解する ・頭部X線規格写真で計測する項目について理解する ・治療方針の立て方について理解する

回	授業項目	授業内容
7	◎矯正治療に使用する器材と 　その取り扱い 1.矯正治療に使用する器材と 　その取り扱いについて知る(講義)	・以下の矯正用器具の構造と使用法について説明できるようにする 　ワイヤーベンディングプライヤー
8	◎矯正治療に使用する器材と 　その取り扱い 1.矯正治療に使用する器材と 　その取り扱いについて知る(実習)	ヤングプライヤー 　ツイードループベンディングプライヤー 　ツイードアーチベンディングプライヤー 　バードビークプライヤー 　ライトワイヤープライヤー 結紮、歯冠離開用鉗子 　ハウプライヤー 　ワインガートユーティリティープライヤー 　リガチャータイイングプライヤー ワイヤーカッター 　ワイヤーカッター 　ピンアンドリガチャーカッター 　ディスタルエンドカッター バンドフォーミングプライヤー バンドカンタリングプライヤー バンドやボンディング材の撤去用鉗子 　バンドリムービングプライヤー 　ボンディング材撤去鉗子 その他の器具 　バンドプッシャー 　リガチャーディレクター 　アーチフォーマー 　ブラケットポジショニングゲージ 　スポットウェルダー ・以下の矯正材料の使用法について説明できるようにする ワイヤー 　弾線 　アーチワイヤー 　クラスプ 　唇側線 　舌側弧線 　リガチャーワイヤー 　セパレーティングワイヤー バンド材料 ブラケット チューブ スクリュー コイルスプリング 床材料(レジン) エラスティック エラスティックモジュール ボンディング材
9	◎矯正装置 1.可撤式装置と固定式装置に 　ついて知る 2.各種矯正装置について知る	・可撤式装置と固定式装置の利点と欠点について説明できるようにする ・以下の矯正装置の構造と適応症について説明できるようにする 舌側弧線装置 マルチブラケット装置 顎間固定法 床矯正装置 機能的顎矯正装置 側方拡大装置 顎外固定装置
10	◎保定 1.保定について知る	・保定には自然保定と器械保定があることを理解する ・保定装置の種類、構造について理解する ・あと戻りの原因を説明できるようにする

回	授業項目	授業内容
11	◎歯科矯正治療の実際 1.歯科矯正治療の開始時期を知る 2.乳歯列期の歯科矯正治療について知る 3.混合歯列期の歯科矯正治療について知る 4.永久歯列期の歯科矯正治療について知る 5.成人の歯科矯正治療について知る 6.唇顎口蓋裂の歯科矯正治療について知る 7.外科的矯正治療について知る	・早期治療の長所と短所について理解する ・乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期それぞれの時期に歯科矯正治療の対象となる不正咬合について理解する ・乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期それぞれの時期の実際の歯科矯正治療について理解する ・成人の歯科矯正治療の特徴と限界について理解する ・歯周治療のための矯正治療、補綴前準備のための矯正治療について理解する ・唇顎口蓋裂の歯科矯正治療について理解する ・外科的矯正治療の適応症と術前、術後の矯正治療について理解する
12～13	◎歯科矯正における歯科衛生士の役割 1.歯科矯正における歯科衛生士の役割について知る	・矯正歯科における以下の業務について理解する 口腔衛生指導管理 患者教育 刷掃指導、口腔衛生指導 間食指導、食事指導 予防措置 口腔機能の改善 指しゃぶり、舌突出癖の排除（筋機能療法） 咀嚼訓練、開口訓練 介補 チェアアシスタント ダイレクトボンディングブラケットの接着準備、補助 ボンディング材撤去後の歯面の研磨 アーチワイヤーの結紮、撤去 バンドへのブラケット、チューブの溶接、鑞着 セメント合着の準備、余剰セメントの除去 バンドやダイレクトボンディングブラケットの脱落チェック 歯冠離開、措置破損時の応急処置 顎機能検査機器などME機器の操作補助 矯正装置・保定装置などの取り扱い方の注意 診断の補助 口腔内写真・顔面写真の撮影 矯正装置の撤去の補助 その他 印象採得、石膏注入 X線写真撮影準備、現像、トレース、計測 石膏模型の製作 保定装置の研磨 事務管理

【科目名】	小 児 歯 科 学	【担当講師】	廣幡 智子
【年次・開講期】 2年次・前期	【時間】 26 時間	【単位】	1単位

【授業概要】

小児歯科医療は病気に対する治療と予防にとどまらず、
心身ともに健康な小児を支援するという保健的な目的を理解する。

【実務経験有】

有（平成13年から 田中歯科医院 院長）

【到達目標】

1. 発育過程と口腔の変化を理解する
2. 小児に対する診療補助及び予防業務を理解する
3. 国家試験出題基準の内容を理解し覚える

【教科書】

歯科衛生学シリーズ「小児歯科学」医歯薬出版 第1版 第3刷

【参考図書】

カラーアトラスハンドブック 小児歯科臨床ヒント集 クインテッセンス出版

【授業方法】

講義形式(教科書・プリント・パワーポイント等）

【評価方法】

全授業の終了後マークシートと記述試験を行う。60点以上の者を合格とする。
出席実績、授業態度、授業中に出す課題(レポート等）の提出実績、内容により加点を課す場合がある。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容	
1	Ⅰ編 小児歯科診療の基礎知識 1章 小児歯科学概論 ・小児歯科学の定義と目的を学び、人間とは健康とは何かを理解する Ⅰ編 5章 歯の発育とその異常（一部）	1. 小児歯科とは ・ヘルマンの咬合発育段階 4. 歯の萌出 5. 歯の萌出異常	P2－5 P39－42
2	Ⅰ編 2章 心身の発育 ・発育の概念・原則を理解し発育状態を評価する ・言語、情動、運動機能および摂食嚥下機能の発育を理解する	1. 発育の概念と分類 2. 発達状態の評価 ・カウプ指数 ・ローレル指数 3. 生理的年齢 ・骨年齢 ・萌出年齢 ・石灰化年齢 4. 器官の発育 ・Scammonの発育曲線	P6－11
3	Ⅱ編 小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割 4章 障害児の歯科治療	5. 精神発達 6. 機能の発達 ・摂食嚥下機能の発達 Ⅱ-4. 小児の摂食嚥下障害の特徴	P11－19 P165－168
4	Ⅰ編 3章 小児の生理的特徴 ・小児のバイタルサインの特徴と薬剤を理解する Ⅰ編 4章 顔面頭蓋の発育 ・上下顎骨の発育・成長を理解する	1. バイタルサインと生理的特徴 2. 薬剤処方と薬物療法 1. 脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化 ・上顎骨の発育 ・下顎骨の発育	P20－30

回	授業項目	授業内容	
5	Ⅰ編　5章　歯の発育とその異常 ・乳歯、幼若永久歯の特徴を理解する ・歯の形成異常、萌出異常を理解する	1．乳歯、幼若永久歯の特徴 2．歯の形成 ＜＜ここまでの復習プリント＞＞	P31－36
6		3．歯の発育時期と形成異常 ・無歯症　・エナメル質形成不全　・ターナーの歯 ・中心結節　・カラベリー結節　・プロトスタイリッド ・臼後結節	P36－39
7	Ⅰ編　6章　歯列、咬合の発育と異常 ・ヘルマンの咬合発育段階を理解する ・歯列、咬合の発育と異常を理解する	1．歯列、咬合の発育 ・生理的歯間空隙　・ターミナルプレーン ・リーウェイスペース 2．歯列、咬合の異常 ・口腔習癖　・指しゃぶり、おしゃぶり ＜＜復習テスト＞＞	P43－52
8	Ⅰ編　7章　小児の歯科疾患 ・乳歯、幼若永久歯のう蝕の特徴を理解する ・小児の口腔粘膜や歯肉に現れる疾患を理解する	1．小児にみられるう蝕 ・乳歯のう蝕の特徴 ・幼若永久歯のう蝕の特徴 2．小児にみられる歯周疾患 ・不潔性歯肉炎　・抗てんかん薬による歯肉増殖症	P53－60
9		3．小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患 ・先天性歯　・リガフェーデ病　・ヘルペス性口内炎 ・アフタ性口内炎　・麻疹、水痘　・ヘルパンギーナ ・手足口病　・カンジダ症　・上皮真珠　・歯肉膿瘍 ・ベドナーアフタ　・粘液のう胞　・口唇ヘルペス ・上唇小帯異常　・舌小帯異常　・外胚葉異形成症 ・唇顎口蓋裂　・鎖骨頭蓋異形成症	P61－65
10	Ⅰ編　8章　小児虐待 Ⅱ編　3章　小児歯科における診療体系 ・小児歯科治療体系の流れを理解し、小児歯科患者への対応や診療補助に必要なことを覚える ・障害児の特徴を理解し覚える	1～7．小児虐待 Ⅱ-9．外傷の処置 Ⅱ-10．咬合誘導 ・クラウンループ　・リンガルアーチ ・ナンスのホールディングアーチ ・可撤保隙装置　・スペースリゲーナー	P66－72 P142－145 P146－149
11	Ⅱ編　3章　小児歯科における診療体系	3．小児のX線撮影法 ・咬翼法　・オルソパントモ 6．小児の歯冠修復 7．小児の歯内療法	P105　X線 P112－123 P124－137
12	Ⅱ編　2章　小児歯科における患者との対応法 Ⅱ編　4章　障害児の歯科治療	4．年齢別にみた小児の行動と対応法 5．歯科治療時の対応法 ・一般的対応法 ・TSD法　・オペラント条件付け ・モデリング法　・HOM法　・TEACCH法 2．主な障害と全身的・歯科的特徴 ・脳性麻痺　・知的能力障害（ダウン症） ・発達障害（自閉スペクトラム症）	P82－95 P154－165
13	夏休みの宿題の解説と 単位習得試験対策		

【科目名】	高齢者･障害者歯科学	【担当講師】	中内　彩乃

【年次･開講期】　2年次　前期	【時間】　26時間	【単位】　1単位

【授業概要】

高齢者･障害者の歯科診療に必要な知識を身につける

【実務経験有】

・群馬県歯科衛生総合センター歯科医長

・日本歯科専門医機構認定小児歯科専門医

【到達目標】

1、高齢者の加齢に伴う変化を学習し，口腔衛生管理の必要性を理解する

2、障害者の口腔の状態について学習し，口腔衛生管理の必要性を理解する

3、高齢者，障害者の歯科診療に際して注意すべき点とその対応について理解する

4、高齢者，障害者の診療に関わる多職種連携や関連法律、制度について理解する

【教科書】

歯科衛生士学シリーズ　高齢者歯科学　医歯薬出版

最新歯科衛生士教本　障害者歯科　第2版　医歯薬出版

【参考図書】

【授業方法】

講義

【評価方法】

試験の得点（100点満点）が60点以上の者を合格とする。

また小テスト，レポートなどを課す予定である。課題の結果･内容は合格の判定に加味する。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	高齢者歯科	高齢社会と健康 加齢による身体機能の変化 口腔･咽頭領域の加齢変化
2	高齢者歯科	高齢者の精神･心理的変化 高齢者に多い全身疾患･障害および口腔疾患，オーラルフレイル， 口腔機能低下症 歯科治療時に注意すべき全身疾患（糖尿病，心疾患，高血圧など）
3	高齢者歯科	高齢者歯科と臨床検査（バイタルサイン，血液検査） 高齢者の栄養状態（スクリーニング検査，栄養摂取方法）
	障害者歯科	障害の概念，定義 ICF，ノーマライゼイション，バリアフリー，ユニバーサルデザイン
4	障害者歯科	歯科医療で特別な支援が必要な疾患（知的能力障害，身体障害， 精神障害を伴う疾患）ダウン症候群，脳性麻痺，自閉スペクトラム症， てんかん，聴覚障害，言語障害　など 歯科治療時の注意点とコミュニケーション方法
5	障害者歯科	障害者の歯科治療（行動調整法，薬物療法，身体抑制法） リスク評価と医療安全 （ヒヤリハット，インシデント，インシデントレポートなど） 感染制御対策，スタンダードプレコーション 障害のある人への口腔ケア
6	高齢者歯科	周術期･急性期の高齢者への口腔健康管理 回復期の高齢者への口腔健康管理 慢性期の高齢者への口腔健康管理 終末期の高齢者への口腔健康管理

回	授業項目	授業内容
7	高齢者歯科・障害者歯科	摂食嚥下リハビリテーション（摂食・嚥下の仕組み，プロセスモデル， 摂食・嚥下障害の原因） 摂食嚥下障害のスクリーニング検査 摂食嚥下障害の精密検査（嚥下造影検査，嚥下内視鏡検査） 口腔機能低下症の検査方法
8	高齢者歯科・障害者歯科	摂食機能療法（摂食介助，摂食機能訓練） 摂食機能訓練（間接訓練） 嚥下機能訓練，呼吸機能訓練
9	高齢者歯科・障害者歯科	摂食機能訓練（直接訓練） 障害のある人への摂食・嚥下療法 各種スケール
10	高齢者歯科・障害者歯科	高齢者・障害者の健康に関する法律 介護保険制度 地域包括ケアシステム
11	高齢者歯科	リハビリテーションの概要，チーム医療 生活機能評価（ADL，IADL，FIM，BDR指標など）
12	障害者歯科	地域医療連携 （一次医療機関・二次医療機関・三次医療機関の役割）
13	高齢者歯科・障害者歯科	テスト対策を含めた復習

【科目名】	歯科予防処置1（講義）	【担当講師】	塚越　良奈

【年次・開講期】	1年次・通年	【時間】	48時間	【単位】	2単位

【授業概要】

歯科予防処置論の概念を理解するために、歯牙・歯周組織に関する基礎的知識を習得する

【実務経験有】

歯科衛生士としての実務経験有

【到達目標】

歯科予防処置の定義と内容を説明する
歯周組織の名称が列挙できる
歯肉の正常像を説明できる
歯の付着物、沈着物の性質を説明できる
歯周病の発症と進行を説明できる
歯周診査用器材を列挙できる
手用スケーラーの種類と特徴を説明できる
手用スケーラーの基本操作ができる
マネキンの取り扱いを理解し、操作できる
マネキンで部位別にスケーラー操作ができる
探針の特徴と使用を理解する
プローブの特徴と使用を理解する
超音波スケーラーの原理と特徴を理解できる
エアースケーラーの原理と特徴を理解できる
歯面研磨の目的や器具、操作法について理解する

【教科書】

最新歯科衛生士教本　歯科予防処置（医歯薬出版）

【参考図書】

最新歯科衛生士教本　歯周病学　医歯薬出版

【授業方法】

講義

【評価方法】

全講義終了後　筆記試験を行う。60点以上の者を合格とする。
出席実績、授業態度、提出物等により総合的に判断する。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	歯科予防処置業務の理解	歯科予防処置業務内容を学ぶ 歯科予防処置の定義と意義を説明する
2～5	歯・口腔の状態把握	歯・歯周組織の名称を理解する 健康歯肉の特徴、病的歯肉の変化を説明する プラーク、歯石について理解する その他付着物、沈着物の違いを説明する
6～8	歯周疾患についての理解	歯周組織の肉眼的変化を説明する ポケットの形成、歯槽骨吸収を理解する 根分岐部病変を理解する
9・10	歯石除去に用いる器材	歯周診査用器材を説明する 手用スケーラー（5つ）の種類、特徴、適応症について具体的に述べる
11	シックルタイプスケーラーの操作（演習）	シックルスケーラーの操作4原則、把持、運動、固定を応用できる

回	授業項目	授業内容
12	ミラーの目的と使用法 （ミラーの使用法の演習）	ミラーの役割、把持、固定法を説明する
13	マネキンの取り扱い	マネキン取扱い、MA、HR、術者位置を応用する
14	マネキンでのスケーラー操作	マネキン上でシックルスケーラーによる部位別除石を理解する
15	探針の特徴と使用法 （探針の使用法の演習）	探針の種類、使用目的、把持、使用時の注意を説明する
16・17	プローブの特徴と使用法	プロービングによって得られる情報を述べる ポケット測定部位、測定時の注意事項を応用する
18	チェアーユニットの取り扱い	チェアーユニットの各名称、使用法、注意点を説明する
19	医療現場に相応しい身支度	実習時の身支度を知る
20・21	超音波スケーラーの知識と基本的操作	超音波スケーラーの原理と特徴を具体的に述べる
22	エアースケーラーの知識と基本的操作	エアースケーラーの原理と特徴を具体的に述べる
23	バキューム操作（演習）	バキュームの挿入法、注意点を応用する
24	歯面研磨の知識と基本的操作	歯面研磨の種類、目的、注意事項について具体的に述べる 研磨剤の所要条件、主要成分を述べる

【科目名】 **歯科予防処置論1（実習・実技）**	【担当講師】 松原　香織　塚越　良奈

【年次・開講期】 1年次・通年	【時間】 60 時間	【単位】 2単位

【授業概要】

予防処置法の使用器具の取り扱いと操作の基本を理解するために必要な技術を身につける

【実務経験有】

歯科衛生士としての実務経験有

【到達目標】

手用スケーラーの基本的操作ができる

マネキンの取り扱いを理解し、操作できる

マネキンで部位別にスケーラー操作ができる

超音波スケーラーの正しい操作ができる

歯面研磨の操作ができる

【教科書】

最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）

【参考図書】

最新歯科衛生士教本　歯周病学（医歯薬出版）

【授業方法】

実習

【評価方法】

実技試験

マネキン上でスケーラー操作を合否の評価とする

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1～4	シックルタイプスケーラー操作法①	石膏棒を用いて
5	シックルタイプスケーラー操作法②	顎模型を用いて
6	シックルタイプスケーラー操作法③	マネキン模型実習（下顎前歯部）
7	シックルタイプスケーラー操作法④	マネキン模型実習（上顎前歯部）
8	シックルタイプスケーラー操作法⑤	マネキン模型実習（上顎左側臼歯部）
9	シックルタイプスケーラー操作法⑥	マネキン模型実習（上顎右側臼歯部）
10	シックルタイプスケーラー操作法⑦	マネキン模型実習（下顎左側臼歯部）
11	シックルタイプスケーラー操作法⑧	マネキン模型実習（下顎右側臼歯部）
12・13	シックルタイプスケーラー操作法⑨	マネキン模型実習（全顎）
14	探針操作法	マネキン模型実習（全顎）
15	プローブ操作法①	マネキン模型実習（上顎）
16	プローブ操作法②	マネキン模型実習（下顎）
17	プローブ操作法③	マネキン模型実習（全顎）
18・19	超音波スケーラー操作法①	マネキン模型ユニット（上下前歯部）実習

回	授業項目	授業内容
20	超音波スケーラー操作法②	マネキン模型ユニット（上下顎臼歯部）実習
21・22	超音波スケーラー操作法③	マネキン模型ユニット（全顎）実習
23	歯面研磨操作法①	マネキン模型ユニット（上下前歯部）実習
24	歯面研磨操作法②	マネキン模型ユニット（上下顎臼歯部）実習
25・26	歯面研磨操作法③	マネキン模型ユニット（全顎）実習
27・28	超音波スケーラー・歯面研磨の操作法	マネキン模型ユニット（全顎）実習
29	相互実習①	ユニット実習（プロービング・スケーリング・歯面研磨）
30	相互実習②	ユニット実習（プロービング・スケーリング・歯面研磨）

【科目名】 歯科予防処置2（講義）	【担当講師】 柳町　千春

【年次・開講期】 2年次・通年	【時間】 24時間	【単位】 1単位

【授業概要】

う蝕予防処置に応用される薬物や材料・器具について正しい知識を身につける

キュレットスケーラーの操作法、シャープニングを習得する

【実務経験有】

柳町歯科医院（歯科衛生士）

【到達目標】

う蝕について理解する

う蝕予防処置ついて理解する

フッ化物について理解する

PMTCの意義、操作を理解する

薬物や材料について、正しい知識を身につける

【教科書】

最新歯科衛生士教本　歯科予防処置（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本　歯周病学（医歯薬出版）

最新衛生士教本　保健生態学（医歯薬出版）

【参考図書】

抗菌薬・殺菌薬とフッ化物（医歯薬出版）

フッ化物応用と健康（口腔保健協会）

感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄（医歯薬出版）

【授業方法】

講義（教科書、プリント、スライド）

【評価方法】

全授業および実習終了後、筆記試験を行う。60点以上の者を合格とする。

授業態度、課題（レポート）の提出内容についても、成績に含む。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	齲蝕の疫学	う蝕の疫学的特性について 「健康日本21」ヘルスプロモーションについて 歯科衛生士が行うう蝕予防処置法について
	う蝕予防法①	う蝕発生のメカニズム・要因について う蝕の予防法 う蝕発生要因に対する予防法 ステファンカーブ
2	う蝕の予防②	う蝕活動性試験 リスク分類の特徴
	う蝕の予防③	唾液の作用について カリエスリスク診断について
3	フッ化物によるう蝕予防	フッ素の基礎知識　日本及び世界のフッ化物応用について フッ素の代謝について フッ素の毒性・安全性について
	フッ化物応用によるう蝕予防方法①	フッ化物歯面塗布法 目的、種類、術式
4	フッ化物応用によるう蝕予防方法②	フッ化物洗口 フッ化物配合歯磨剤 水道水・食品へのフッ化物添加
	フッ化物量の算出法	安全量・悪心嘔吐発現フッ化物量の算出法

回	授業項目	授業内容
5	塗銀法の応用	フッ化ジアミン銀の適応と禁忌 フッ化ジアミン銀塗布法の術式 汚染時の対応について
6	カリエスリスク診断①	口腔内の観察 食事回数・フッ化物応用調査、DMFT う蝕活動性試験　レーダーチャートの作成
7	カリエスリスク診断②	カリエスリスク診断 予防プログラムの作成
	カリエスリスク診断③	リスク別グループワーク 予防プログラムの発表
8	小窩裂溝填塞の応用	小窩裂溝填塞法の適応と禁忌 小窩裂溝填塞法に使用する器具・機材ついて ラバーダム防湿について
9	PMTC	PMTCとは PMTCツール・術式について フッ化物入りペーストの種類・特徴について
10	歯科領域の インフェクションコントロール	ユニバーサルプレコーションとは 感染リスクと対策のレベル 滅菌・消毒・洗浄について 医療従事者の感染予防対策について
11	シャープニング	シャープニングの目的と必要性を理解する 使用器具と研ぎ方の原則および、鋭利度判定について学ぶ シックル・キュレットスケーラーの研磨方法を修得する
12	キュレットスケーラー	キュレットの形態や使用目的について理解する グレーシータイプ、ユニバーサルタイプキュレット グレーシータイプキュレットを用いた歯石除去の基本操作を学ぶ キュレットの使用方法、キュレット使用上の注意

【科目名】 歯科予防処置2(実習・実技)	【担当講師】 柳町　千春　塚越　良奈

【年次・開講期】 2年次・通年	【時間】 60時間	【単位】 2単位

【授業概要】

齲蝕予防法の基礎知識に基づき、齲蝕予防処置業務における歯科衛生過程を理解したうえで、フッ化物応用法・小窩裂溝填塞法・齲蝕活動性試験等の術式を習得し、術前、術後の指導ができるようにする

【実務経験有】

柳町千春：柳町歯科医院（歯科衛生士）

塚越良奈：歯科衛生士としての実務経験有

【到達目標】

う蝕予防処置法の種類および術式について理解する

各う蝕予防処置に必要な薬液・材料について理解するとともに、準備ができる

正確な手技を身につける

ライフステージにあったう蝕予防処置前後に必要な患者指導ができる

キュレットスケーラーの操作法を習得する

【教科書】

最新歯科衛生士教本　歯科予防処置（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本　歯周病学（医歯薬出版）

最新衛生士教本　保健生態学（医歯薬出版）

【参考図書】

【授業方法】

実習

【評価方法】

実習態度および姿勢

模型実習および相互実習で、専任教員が技術評価する

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	フッ化物歯面塗布法実習①	綿球法　歯ブラシ法（相互実習）NaF 味見、フッ化物量の算出
2	フッ化物歯面塗布法実習②	綿球法　歯ブラシ法（相互実習）APFゼリー 味見、フッ化物量の算出
3	フッ化物歯面塗布法実習③	トレー法（相互実習）
4	小窩裂溝填塞実習	小窩裂溝填塞法（模型実習） ラバーダム防湿
5	PMTC実習①	PMTC実習（マネキン実習） 上顎
6	PMTC実習②	PMTC実習（マネキン実習） 下顎
7	PMTC実習③	PMTC実習（相互実習）
8	PMTC実習④	PMTC実習（相互実習）
9	塗銀法実習	塗銀法（模型実習）　染み抜き実習 フッ化ジアミン銀の汚染時の対応法

回	授業項目	授業内容
10	キュレットスケーラー実習①	下顎前歯部（マネキン実習）
11	キュレットスケーラー実習②	上顎前歯部（マネキン実習）
12	キュレットスケーラー実習③	上顎左右臼歯部（マネキン実習）
13	キュレットスケーラー実習④	下顎左右臼歯部（マネキン実習）
14	キュレットスケーラー実習⑤	全顎復習（マネキン実習）
15	キュレットスケーラー実習⑥	全顎復習（マネキン実習）
16	シャープニング実習	キュレットスケーラー 操作法、使用器具等
17 18	相互実習①	頭髪、白衣等の身支度を整える ユニット等の取扱い　術者位置等の確認　口腔内観察
19 20	相互実習②	歯石除去 手用スケーラー
21 22	相互実習③	プロービング・歯石除去・歯面研磨（下顎） 手用スケーラー
23 24	相互実習④	プロービング・歯石除去・歯面研磨（全顎） 手用スケーラー
25 26	相互実習⑤	プロービング・歯石除去・歯面研磨（上顎） 超音波スケーラー
27 28	相互実習⑥	プロービング・歯石除去・歯面研磨（下顎） スケーリング（超音波スケーラー）
29 30	相互実習⑦	プロービング・歯石除去・歯面研磨（全顎） スケーリング（超音波スケーラー）印象採得（片顎）

【科目名】	歯科予防処置 ３	【担当講師】	柳町 千春 塚越 良奈

【年次・開講期】 3年次・後期	【時間】 24時間	【単位】 1単位

【授業概要】

臨地・臨床実習修了時に得た知識や技術と座学で学んだ基礎知識をリンクするために歯科予防処置全般を総復習する

【実務経験有】

柳町千春：柳町歯科医院（歯科衛生士）

塚越良奈：歯科衛生士としての実務経験有

【到達目標】

歯科予防処置についての専門的知識と技術や態度を修得する

歯周病の基本的知識を理解する

う蝕予防の目的と内容を理解する

薬剤や材料を適切に取り扱える知識を修得する

【教科書】

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本 歯周治療（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本 保健生態学（医歯薬出版）

【参考図書】

【授業方法】

講義

【評価方法】

学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たし、全講義終了後、国家試験と同じ形式で試験を行う。合計得点の60％以上の得点で合格とする。

出席実績、授業態度も評価する場合がある。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	歯科予防処置の概要	歯科予防処置の内容、対象者の把握
2	口腔の基礎知識	正常な口腔、歯周組織、歯冠と歯根の形態、口腔の機能 口腔内の付着・沈着物、プラーク、歯石、歯周病
3	歯周病の基礎知識	生活習慣の把握、歯周病と全身疾患の関連性
4	歯周診査器具	歯や歯周組織の検査法、使用器具 プロービング、動揺度、コンタクト検査
5	歯石除去法	手用スケーラー、超音波スケーラー、エアースケーラーの特徴と操作法、 術者位置
6	歯面研磨法	使用器具、器械、材料の種類、操作方法
7	う蝕の基礎知識	う蝕と生活習慣の関連、全身疾患の関連、安全性
8	フッ化物の応用	薬剤の種類、取扱い事項、塗布の分類と術式、注意事項 フッ化物の種類、使用法
9	小窩裂溝填塞法	填塞材の種類や特徴、適応症、術式、注意事項
10	シャープニング	使用器具、操作法
11	う蝕のリスク評価	う蝕の活動性、う蝕活動性試験
12	総まとめ	歯科予防処置全般の総復習

【科目名】	歯科保健指導論1	【担当講師】	設楽　雅枝
【年次・開講期】　1年次・通年	【時間】　52時間	【単位】　2単位	

【授業概要】

歯科の二大疾患であるう蝕と歯周疾患の予防は、個人が毎日自主的に行うことにより効果があるが、自分の口腔内に関心を持っていない者も多くいるのが、現状である。そのような人に対して、口腔の健康への関心を高め、健康管理ができる方向に援助できるよう、基礎知識と技術を学ぶ。

【実務経験有】

歯科衛生士としての実務経験有

【到達目標】

歯科保健指導の目的を理解する。
口腔の正常像を理解する。
歯ブラシの所要条件と選択基準がわかり、各種ブラッシング法が実践できる。
歯口清掃の評価と各指標・指数を理解している。
各種補助清掃道具の種類、使用方法を理解する。

【教科書】

新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論　医歯薬出版

【参考図書】

【授業方法】

講義形式（教科書、プリント、スライド、DVD）・実習

【評価方法】

筆記試験の評価点により総合的に判断する
定期試験100点満点中60点以上で合格
出席態度（実習態度）・実習レポート

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1～4	歯科保健指導とは ・歯科保健指導と保健教育 ・保健行動 ・指導、助言の方法	歯科保健指導の意義・目的を理解する。
5.6	口腔保健正常像の理解	口腔周囲組織の正常な状態を理解する。
7	初期病変の理解	う蝕や病変の初期病変の状態を理解する。
8.9	歯ブラシの基礎知識	歯ブラシの歴史、各部の名称や、形態などを理解する。
10.11	歯ブラシの種類・歯磨きの方法 口腔内の汚れについて	対象別の歯ブラシの特徴を理解し、個人に 合った歯ブラシを選択できるようにする。 口腔内の付着物・沈着物の特徴や除去方法を理解する。
12.13	歯ブラシの害・歯磨剤について	歯磨きにおける偽害作用の症状や、歯磨剤 の偽害作用の問題点・解決策を理解する。
14.15	染め出し剤について	染めだし剤の種類・所要条件・染めだし方法・ 手順を理解する。
16	染め出し実習	いろいろな種類の染めだし剤を実際に口腔内 で体験し、色の違いや染色状況を習得する。
17.18	毛先磨き実技実習①	歯ブラシの毛先を使用した磨き方の種類と方法を 習得する。
19.20	脇腹磨き実技実習②	歯ブラシの脇腹を使用した磨き方の種類と方法を 習得する。
21	補助清掃用具について	各種補助清掃用具の種類・使用方法・特徴を理解し、 状態にあった清掃用具を選択し、指導方法を習得する。
22.23	汚れの表現方法①	口腔清掃指数のオレリー、OHI、OHI－Sなどの 指数化を習得する。
24	汚れの表現方法②	歯周疾患の指標について習得する。
25.26	染め出し実習	相互実習で染めだしを行い、PCRをとり問題 部分に対してブラッシング指導の方法を考える。

【科目名】	歯科保健指導論2	【担当講師】	松原香織

【年次・開講期】 2年次・前期	【時間】 78時間	【単位】 3単位

【授業概要】

個人（集団）を対象とした歯科保健指導を実践できるよう、ライフステージごとのセルフケア・プロフェッショナルケアの方法を専門的な立場から支援・助言ができるように、知識、技術、態度を学ぶ。

【実務経験有】

歯科衛生士としての実務経験有

【到達目標】

集団、個人などを対象に合わせた口腔衛生指導やメインテナンス管理方法を理解する。

地域歯科保健指導における集団指導の展開方法を理解する。

【教科書】

最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）

【参考図書】

【授業方法】

講義

【評価方法】

筆記試験の評価点により総合的に判断する。

評価は100点満点で6点以上を合格とする。

出席態度（実習態度）、実習レポートの提出

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1.2	情報収集の方法	保健指導をするうえで患者の情報収集の 重要性を理解する。
3	スタディモデルについて	スタディモデルから読み取れる情報や活用方法について
4	口腔内写真について	口腔内写真から読み取れる情報や活用方法について
5	問題点の抽出と分析	口腔内写真・スタディモデルを用い問題点の抽出と分析を行い、 問題点に対する解決策を考える。
6～8	成人の口腔保健管理	1年生を患者とする症例検討実習を行い、実際の指導法を学ぶ。 （情報収集・考察・指導案の計画・実施）
9	歯科保健指導論	口腔保健における歯科衛生士の役割を理解する。
10.11	対象別保健指導①	妊産婦期の歯科保健行動を理解する。
12～14	対象別保健指導②	新生児期・乳幼児期の歯科保健行動を理解する。
15	対象別保健指導③	学齢期の歯科保健行動を理解する。
16	対象別保健指導④	青年期の歯科保健行動を理解する。

回	授業項目	授業内容
17	対象別保健指導⑤	成人期の歯科保健行動を理解する。
18.19	対象別保健指導⑥	高齢期の歯科保健行動を理解する。
20	対象別保健指導⑦	有病者の歯科保健行動を理解する。
21	インプラント装着者への メインテナンス	インプラント体の構造と、メインテナンスの方法を理解する。
22.23	音波電動歯ブラシについて	音波電動ブラシの特徴を理解し、患者さんに使用方法の説明ができる。
24	健康教育について	地域歯科保健の場における歯科衛生士の役割を知る。
25	指導用媒体の種類	個人・集団に指導する際の媒体について学ぶ。
26	集団への指導法	集団の特性を理解し、具体的な指導法を学ぶ。
27.28	幼児への口腔保健教育活動 （保育所歯科刷掃指導実習）	幼児、保護者への口腔保健教育と保育士、教員等への 支援内容を理解する。
29	情報の収集と整理法	対象集団へ、適切な情報を提供するためにも、 正しい情報の収集のやりかた、その情報をどのように 活用していくか理解する。
30	対象把握の目的	集団指導を行う場合、対象とそれを取り巻く環境（生活背景） や対象者の状況を把握する必要があることを理解する。
31	保育所における集団指導	実習に備えて、役割分担、指導目標と指導内容の検討、 指導内容の決定をおこなう。
32～37	紙芝居・ペープサート（媒体） 等の作製と活用法	紙芝居・ペープサートの作製をとおして、活用法・話法を学ぶ。
38	保護者向けパンフレット作製	対象集団・年齢にあったテーマでパンフレットを作製。
39	ご褒美のメダル作製	対象集団にあったテーマでご褒美メダルを作製。

【科目名】 歯科保健指導論2ーⅠ	【担当講師】 大美賀　由美子

【年次・開講期】　2年次・前期	【時間】　16 時間	【単位】　1単位

【授業概要】

食事摂取基準を理解し、ライフステージ別にどのような食生活指導が必要かを学ぶ。

国民栄養の現状と課題を学ぶ。

食品成分表の内容について学ぶ。

2冊の教科書を使います。

7回目の分量が多いため、8回目にずれ込むことになります。

【実務経験有】

管理栄養士　足利製菓専門学校非常勤講師（公衆衛生学）

【到達目標】

国家試験合格のための知識を得る。

その知識を自分自身や家族、患者さんの健康管理に役立てることができるようになる。

【教科書】

①歯科予防処置論・歯科保健指導論

②人体の構造と機能 2 栄養と代謝

【参考図書】

日本人の食事摂取基準　離乳食大事典　幼児食大事典　食事バランスガイド

【授業方法】

講義　1回毎に「復習シート」を配布し、各自の学習に役立てる。

【評価方法】

マークシート式の試験を行い、100点満点中60点以上を合格とする。

不合格者は再試験。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	食事摂取基準 ②p128～p139	日本人の食事摂取基準とはどういうものか。 栄養素の指標とは。
2	妊産婦期 ①p310～p320	妊産婦期の一般的特徴 妊産婦に対する食生活指導
3	乳児期 ①p320～p330	乳児期の一般的特徴 乳児期における食生活指導（離乳を含む）
4	幼児期・学齢期 ①p330～p344	幼児期・学齢期の一般的特徴 幼児期・学齢期における食生活指導
5	青年期・成人期 ①p345～p359	青年期・成人期の一般的特徴 青年期・成人期における食生活指導
6	老年期 ①p360～p370	老年期の一般的特徴 老年期における食生活指導
7	食生活と健康 ②p178～p193	国民栄養の現状と課題　望ましい食生活 食生活指針
8	食べ物と健康 ②p203～p210	食品成分表　食品分類　食べ物の物性

【科目名】	**歯科保健指導論3**	【担当講師】	設楽雅枝　松原香織

【年次・開講期】　3年次・後期	【時間】　20時間	【単位】　1単位

【授業概要】

講義やグループワークを中心に歯科衛生過程の思考とプロセスを学び、それに基づいた
歯科衛生介入ができるように症例検討などを通して学んでいく。

【実務経験有】

歯科衛生士としての実務経験有

【到達目標】

歯科衛生過程に基づいた情報収集、ケア計画立案を行い対象者に合わせた介入ができる。
計画内容及び介入について、評価・検討ができる。

【教科書】

最新　歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）

【参考図書】

よくわかる　歯科衛生過程（医歯薬出版）・事例でわかる　歯科衛生過程（医歯薬出版）

【授業方法】

講義

【評価方法】

学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たし、全講義終了後、国家試験と同じ形式で
試験を行う。合計得点の60％以上の得点で合格とする。
出席実績、授業態度も評価する場合がある。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	歯科衛生士過程とは	歯科衛生士過程を学ぶ意味
2	歯科衛生過程の基礎	歯科衛生過程の思考とプロセス
3・4	歯科衛生過程の進め方	アセスメント・歯科衛生診断・歯科衛生計画立案・歯科衛生介入 歯科衛生評価・書面化について
5・6	歯科衛生過程の応用	症例から考える歯科衛生過程の実践方法 （グループワーク・発表）
7・8	義歯安定剤、洗浄剤について	臨床で使用されている材料の特徴や効能について習得する。
9・10	100％歯磨き	歯ブラシ、補助清掃道具を使用し磨き残しの部分にに対して、適切な道具を 選択し使用する。

【科目名】	**歯科診療補助論1**	【担当講師】	渡辺　昌明

【年次・開講期】	1年次・通年	【時間】	15時間	【単位】	2単位

【授業概要】

歯科診療において使用される材料の種類と特性について理解し、それぞれの使用目的、使用方法について知識を習得する。

【実務経験有】

渡辺歯科医院（歯科医師）

【到達目標】

各種歯科材料の基本性質と取り扱い方を理解する。

診療室の管理について理解する。

歯科診療の補助を理解する

感染予防のための滅菌・消毒の必要性を理解する

【教科書】

最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 医歯薬出版株式会社

最新歯科衛生士教本「歯科材料」 医歯薬出版株式会社

【参考図書】

【授業方法】

講義

【評価方法】

全講義終了後、筆記試験を行う。60点以上を合格とする。

出席実績、授業態度、提出物等により総合的に判断する。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1・2	印象材	印象採得の目的 印象材の種類と用途、組成と特徴 　　アルジネート、寒天、ゴム印象材
3	模型用材料	石膏の種類と用途 一般性質と取り扱い
4	合着材・接着材	接着材の種類・成分・用途 一般性質と取り扱い
5	成形修復材料	種類と用途　コンポジットレジン、グラスアイオノマー 一般性質と取り扱い
6	仮封材	種類と用途
7	暫間修復材と 仮着用セメント	暫間修復材と仮着用セメントの種類と用途 暫間修復について
8	ワックス	ワックスの種類と用途について
9	歯科診療補助論 歯科診療室の基礎知識	歯科衛生士の業務と歯科診療補助 歯科診療室の環境、構造・設備 歯科用ユニット

<table>
<tr><th>回</th><th>授業項目</th><th>授業内容</th></tr>
<tr><td>10</td><td>医療安全と感染予防</td><td>感染症の概念と予防対策
　　手指消毒
　　滅菌と消毒
　　医療廃棄物の取扱い</td></tr>
<tr><td>11</td><td rowspan="3">歯科診療所おける患者対応の基本</td><td>受診の流れ
共同動作
ポジショニング、ライティング
器具の受け渡し、フォーハンドテクニック</td></tr>
<tr><td>12</td><td>スリーウェイシリンジテクニック
バキュームテクニック</td></tr>
<tr><td>13</td><td>歯科領域に必要な臨床検査
画像検査
口腔内写真撮影</td></tr>
<tr><td>14</td><td>歯科衛生士がかかわる医科疾患患者</td><td>主な全身疾患とその対応
　　代謝･内分泌、血液、呼吸器疾患
　　消化器、腎･泌尿器、循環器疾患疾患</td></tr>
<tr><td>15</td><td>周術期における歯科診療の補助</td><td>病態の把握
口腔機能管理と歯科治療への対応</td></tr>
</table>

【科目名】 歯科診療補助論1（実習・実技）	【担当講師】 設楽 雅枝	
【年次・開講期】 1年次・通年	【時間】 30時間	【単位】 1単位

【授業概要】

歯科診療補助の業務範囲について理解します。また、患者様はじめスタッフとのコミュニケーションを図るためには基本的な作法を理解し、身に着けることが大切です。

受付での窓口応対や電話応対を学び、具体的状況を設定した演習で適切に対応できる能力を養います。

さらに、感染予防や廃棄物の処理方法など、診療室の医療安全管理について、演習を取り入れ学習します。

各歯科材料の基礎知識を認識し、取り扱い方法やその留意点を理解します。

また、各診療内容に沿った共同動作の工夫により効率のよい歯科診療補助を習得します。

【実務経験有】

歯科衛生士としての実務経験有

【到達目標】

歯科診療の流れを理解し、歯科衛生士による補助、介助の重要性を理解する。

歯科診療補助の概要を理解する。

診療室における医療安全管理および消毒・滅菌法を修得する。

受付の事務的な業務を理解し、薬品、物品などの管理法を修得する。

歯科用ユニットを操作し、診療を安全に行う準備ができる。

共同動作を安全に行うことができる。

受付対応の基礎を理解し、患者様に誠意ある対応法を修得する。

【教科書】

最新歯科衛生士教本 「歯科診療補助論」 医歯薬出版

イラストで楽しく学ぶ デンタルオフィス入門 新人さんのためのTextBook 第2版（医歯薬出版）

【参考図書】

ポイントを押さえてスキルアップ チェアサイドのアシスタントワーク（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本 「歯科材料」 医歯薬出版

【授業方法】

実習

【評価方法】

レポート提出、受講・実習態度など

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	診療用器材の取扱い	診療室の環境・設備を整えられる 歯科用ユニットの取扱い・管理ができる
2・3	主要歯科材料の取扱い	歯科用セメントの取扱いができるよう技能を修得する 合着材の取扱い・練和ができる 仮封材の取扱い・練和ができる
4・5		印象材の取扱いができる 印象採得の方法・手順を実施することができる 歯科用石膏の取扱いができる
6・7		（マネキン実習） 上下顎の印象採得ができる マネキン実習にて作製した印象体を用いて石膏注入ができる
8・9		（相互実習） 上下顎の印象採得ができる 相互実習にて作製した印象体を用いて石膏注入ができる
10・11		（相互実習） スタディモデルの作製ができる トリーマーの取扱いができる
12	共同作業	術者・アシスタント・患者のポジショニングを実践できる 正しいライティングができる
13		（マネキン実習） 部位別口腔内洗浄とバキュームテクニックについて修得する
14・15		（相互実習） バキューム操作技術を実施する 歯科診療におけるフォーハンドを実施できる

【科目名】	**歯科診療補助論2（講義）**	【担当講師】	高橋　邦夫

【年次・開講期】　2年次・通年	【時間】　30時間	【単位】　2単位

【授業概要】

令和の時代を担ていく歯科衛生士には、う蝕や歯周病はもちろん、全身疾患、摂食、嚥下障害を有する患者や介護を要する高齢者に対して口腔と全身の関係を考慮し他職種と連携しながら対応していくことが求められます。インプラントや高度先端医療の新たな知識の習得も必須です。こうした社会的ニーズに則したよりよい支援ができる視点と能力が必要になってきます。これらの習得をしていくことが本科目の概要である。

【実務経験有】

みやこ歯科開設・院長（歯科医師）

【到達目標】

具体的には、医療安全、感染予防対策、滅菌法、根管充填法のアシスト、CR術式とアシスト、外科器具の取り扱い、各種印象材の習熟と取り扱い、各種セメントの練り方や取り扱い等
バキューム操作、ラバーダム、模型製作、患者介護

【教科書】

最新歯科衛生士教本　歯科診療補助　医歯薬出版

【参考図書】

最新歯科衛生士教本　歯科材料　医歯薬出版
最新歯科衛生士教本　歯科機器　医歯薬出版

【授業方法】

講義

【評価方法】

全授業終了後　実技試験と筆記試験を行う。
60点以上を合格とする。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	接遇	歯科医療もサービス業であるという観点から、 受付対応、電話対応、挨拶、敬語等を学び 一社会人として恥ずかしくない行動がとれるようにする
2	各種石膏の取り扱い	普通石膏　硬石膏　超硬石膏に分けられる。 混水比もことなり　硬さもことなる。また使用用途も違うことからそれらの性質の差を理解すると同時に取り扱いについても学ぶ。
3	セメント錬和	合着用、接着用セメントも種類が多く　その取り扱いには知識と熟練を要する。 セメントの種類別に錬和法、その性質を学び 実践の場で迷うことなく扱えるようにする。
4	コンポジットレジン充填	コンポジットレジンの性質や取り扱いを学ぶ 光重合型、化学重合型、デュアル重合型、各々緒知識と取り扱い法、 適応症を学ぶ。
5.6	一人スケーリング・バキューム	一人でバキュームを持ちながら　超音波スケーリングが 出来るようにする。特に右上臼歯部、左上臼歯部など 一人では困難な場所のバキュームの取り扱いについて学ぶ。
7	アルギン酸印象採得	アルギン酸印象採得について学ぶ。特に頬側部や 前歯部に気泡が入らないようにする。

回	授業項目	授業内容
8	アルギン酸寒天印象	使用頻度の高いアルギン酸寒天の連合印象について正しい知識と 取り扱い方を繰り返し学ぶ。
9	個人トレー製作	レジンの取り扱いに慣れ　その知識を完全なる 物にする　個人トレー製作を学ぶ。
10	個人トレーを用いての印象	個人トレーを用いたアルギン酸印象 既成トレーとの違いを学ぶ。
11	外科用器具の取り扱い	持針器と針、糸、メスとメスホルダーなどの着脱 について学ぶ。
12	各種研磨について	コンポジットレジン、インレー、クラウン、義歯など 使う器具と研磨法について学ぶ。
13	器具の受け渡し	術者との器具の受け渡しについて学ぶ 相互に術者とアシスタントを経験することで お互いの立場を理解し、受け渡しがスムーズに出来るようにする。
14	バキューム操作法	バキュームをいつどの位置に入れればいいのかを学ぶ。 術者の妨げにならぬようなバキューム操作とはについて学ぶ。
15	プロービング	口腔内のプロービングの6点法計測 出血の有無・チャートの記録の仕方を学ぶ。

【科目名】	**歯科診療補助2（実習・実技）**	【担当講師】	設楽　雅枝
【年次・開講期】　2年次・通年	【時間】　30時間	【単位】　1単位	

【授業概要】

歯科診療の実習を通して、教科者だけではわかり得ない知識や技能等を身に着け、実践的な
歯科衛生士を育成する。また日進月歩の時代のニーズに対応できるようにする。

【実務経験有】

歯科衛生士としての実務経験有

【到達目標】

実習を通して知識や器具の取り扱い水準の技能を高め、社会のニーズに応えるようにする。
コンポジットレジンの取り扱いとアシスタントワーク、各種印象材を用いて複雑窩洞の印象を採り石膏
注入までを行うことで、流れを理解する。また根管充填、歯周外科等の術式への理解を深めるため実
際に実習を行い技能の習得を行う。

【教科書】

最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論　医歯薬出版

【参考図書】

最新歯科衛生士教本　歯科材料　医歯薬出版
最新歯科衛生士教本　歯科機器　医歯薬出版

【授業方法】

実習

【評価方法】

実習毎に模型やチャート等の提出を求め　指導者が評価を行い全授業終了後実技試験を行う。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1.2	保存修復時の診療補助実習①	・コンポジットレジン修復を模型に充填し、レジンの性質や取り扱いを学ぶ。また、アシスタントと術者を経験することでスムーズなアシスタントワークが出来るようにする。 ・即時重合型レジンの性質や取り扱いを学ぶ。暫間被覆冠等作成時に応用できるよう小筆の取り扱いも学び、後片づけの方法等についても実際にできるようにする。
3.4	保存修復時の診療補助実習②	・各種印象材の取り扱いについて学ぶ。 ・寒天とアルジネートの連合印象について特徴を理解し、窩洞形成歯牙にて一連の印象採得が術者、アシスタントと連携しスムースにできるようにする。
5.6	歯内療法時の診療補助実習	・根管充填時の術式を理解し、器具の受け渡し実習を行う。相互に術者とアシスタントを経験することで、お互いの立場を理解し受け渡しがスムーズに出来るようにする。同時に、器具受け渡しに適した位置、避ける位置を学ぶ。 ・様々な小器具の渡し方について学ぶ。 ・各種セメントや仮封剤の練和をし、それぞれの使用器材や稠度が調節できるようにする。
7.8	歯周外科治療の診療補助実習	・各種歯周外科治療の術式について学び、使用する器具を術式ごとに準備できるようにする。 ・持針器と針、糸、メスとメスホルダーなどの着脱について学び着脱ができるようにする。 ・歯周パックの練り方や固さ、口腔内での取り扱い方について学ぶ。

回	授業項目	授業内容
9.10	補綴治療時の診療補助実習①	・アルジネート印象材を使用し概形印象採得をし、 口腔内に適合する既製トレーの選択、歯列の状態に合わせた ワックスでの修正、印象材のトレーへの盛り付けなど、 一連の流れを理解できるようにする。 ・採得した印象に石膏を流入し、スタディモデルを作成する。
11.12	補綴治療時の診療補助実習②	・出来上がったスタディモデルを使用し、個人トレーを作成する。 ・個人トレー用レジンの取り扱いに慣れ、実際に触れることで その性質を理解し、その知識を完全なるものにする。
13.14	口腔外科治療時の診療補助	・各種口腔外科手術の術式について学び、使用する器具を 術式ごとに準備できるようにする。 ・浸潤麻酔、伝達麻酔を学び、それぞれの準備が できるようにする。 ・各種手指消毒法を理解し、臨床の場における手洗いの実際を学ぶ。 手洗いの実際を学ぶ。 また、手洗いチェッカーを用いて洗い残した汚れの有無や付着場所を 確認し、洗い方を再考する。 ・滅菌済ガウンの着用方法や介助方法を学び、実際に介助者と共に 着用し、清潔域と不潔域を理解する。 ・滅菌済グローブの清潔域を理解して、着用できるようにする。
15	矯正治療時の診療補助	・口腔内写真撮影について学び、正面観、側方面観、 咬合面観の撮影ができるようにする。

【科目名】	歯科診療補助論2-Ⅰ	【担当講師】	品川　泰弘

【年次・開講期】	2年次・毎週金曜日 3時限 （13:00～14:30）	【時間】	26時間	【単位】	1単位

【授業概要】

歯科放射線に関する歯科衛生士としての必要な知識を学ぶ。
臨床検査に関する歯科衛生士としての必要な知識を学ぶ。
歯科診療補助行為の基礎から技術までを学習し、的確な歯科診療補助行為を習得する。

【実務経験有】

しながわ歯科クリニック開設・院長(歯科医師）

【教科書】

歯科放射線 第2版 （医歯薬出版）
臨床検査 （医歯薬出版）

【参考図書】

【授業方法】

教科書・プリント・スライド

【評価方法】

全授業の終了後、国試形式・記述式の進級試験を行う。
60点以上の者を合格とする。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	放射線と歯科医療	エックス線と歯科医療、エックス線の発生・性質とその他 エックス線の生体への影響、医療における放射線の防護
2	口内法エックス線撮影	口内法エックス線撮影装置、口内法エックス線撮影に用いる検出器 口内法エックス線撮影、口内法エックス線撮影の実際 配慮が必要な患者のエックス線画像、感染予防策 口内法エックス線撮影に用いるエックス線フィルムとその写真処理
3	パノラマエックス線撮影法	パノラマエックス線撮影の適応 パノラマエックス線撮影装置における画像の形成 パノラマエックス線撮影の実際 パノラマエックス線撮影における画像の評価 パノラマ画像の正常解剖 増感紙フィルム組み合わせ系を用いたパノラマエックス線撮影の場合
4	歯科用コンビームCT その他の画像撮影法	歯科用コンビームCT 頭部エックス線撮影、造影検査と嚥下造影 コンピューター断層撮影法（CT）、磁気共鳴撮影法（MRI） 超音波検査（US）、核医学検査
5	歯科エックス線画像の観察	医療情報システムと画像の管理および観察 画像の観察：歯と周囲組織の病変 画像の観察：顎骨の病変

回	授業項目	授業内容
6	がんの放射線治療と 口腔健康管理	がんの放射線治療、放射線治療患者の口腔健康管理
7	歯科放射線復習	国試形式・記述式による問題を解いて復習
8	臨床検査と歯科衛生士の役割 生理機能検査	臨床検査の必要性、目的、種類、評価、解釈（読み取り方）と注意点 臨床検査における注意事項 バイタルサインに関わる基本の検査 心機能検査、肺機能検査、閉塞性睡眠時無呼吸の検査
9	血液学的検査 感染症の検査	血液学的検査の基本、赤血球・白血球の検査、出血・凝固系検査 微生物学的検査、感染症に関わる血液学的検査、主な感染症の検査
10	肝機能の検査 腎機能の検査 糖代謝の検査	肝臓の構造と機能、肝機能の検査、肝機能の検査に関わる疾患 腎臓の構造と機能、主な腎臓の検査、腎機能の検査に関わる疾患 糖代謝のメカニズム、糖尿病の検査、糖尿病とは
11	代謝・内分泌疾患の検査 免疫・血清学的検査 病理学的検査	金属の検査、ビタミンの検査、ホルモンの検査 免疫・血清学的検査とは、アレルギー検査、自己免疫疾患の検査 輸血に関する検査、悪性腫瘍の検査 病理学的検査とは、細胞診、組織診、病理解剖
12	画像検査 口腔領域の臨床検査	エックス線検査、CT検査、MRI検査、核医学検査、超音波検査 骨量検査、内視鏡検査 う蝕と歯周病の検査、口臭の検査、味覚の検査、口腔カンジダ症の検査 口腔機能低下症の検査、摂食嚥下障害の検査
13	臨床検査復習	国試形式・記述式による問題を解いて復習

【科目名】 歯科診療補助論2－Ⅱ	【担当講師】 稲川　元明

【年次・開講期】　2年次・前期　【時間】　26時間　【単位】　1単位

【授業概要】

医療における歯科麻酔の必要性を理解し、局所麻酔・精神鎮静法・全身麻酔・ペインクリニック・
歯科臨床で遭遇する全身的偶発症について歯科衛生士として必要な知識と技術の習得を目標とする。

【実務経験有】

高崎総合医療センター　歯科口腔外科医長（歯科医師）

【到達目標】

1、局所麻酔について理解する
2、精神鎮静法について理解する
3、全身麻酔について理解する
4、歯科診療時に発生する全身的偶発症を理解する。
5、一次救命処置の方法を理解し、実習で習得する。

【教科書】

最新歯科衛生士教本「顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔」 医歯薬出版

【参考図書】

歯科衛生士国家試験　過去問題

【授業方法】

教科書・スライド・動画による講義形式

【評価方法】

全授業および実習終了後、筆記試験を行う。60点以上の者を合格とする。出席実績、授業態度、
出席実績、授業態度、課題（レポート等）の提出実績、実習態度、実習成績により減点を科す場合がある。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	歯科麻酔学総論 1. 麻酔の概念 2. 歯科臨床における歯科麻酔 全身状態の評価 1. 診察法 2. バイタルサイン・モニタリング 局所麻酔・局所麻酔の構造 1. 局所麻酔薬・局所麻酔薬の 代謝と排泄	・麻酔の概念を理解する ・歯科臨床における麻酔学の役割 ・局所麻酔の発見と応用について知る ・インフォームドコンセント ・問診、視診、触診、打診、聴診 ・呼吸・循環・中枢神経のモニタリング ・局所麻酔薬の全身への作用 ・局所麻酔薬の種類 ・局所麻酔薬の性質と作用 ・口腔領域に用いられる表面麻酔薬
2	局所麻酔 1. 血管収縮薬 2. 全身麻酔時の局所麻酔 3. 局所麻酔を実施する前に 4. 局所麻酔の利点と欠点	・血管収縮薬添加の目的 ・血管収縮薬の種類 ・血管収縮薬の臨床使用上の注意 ・血管収縮薬の薬理(アドレナリン・フェリプレシン) （循環系疾患、甲状腺機能亢進症、糖尿病） ・血管収縮薬の局所的問題 ・アドレナリンの薬物相互作用 ・全身状態の把握 「高血圧症、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、 不整脈、心臓弁膜疾患，脳血管障害、 呼吸系疾患、代謝性疾患、妊婦、肝炎」 ・局所麻酔の利点と欠点
3	局所麻酔 1. 局所麻酔法 2. 局所麻酔の偶発症	・表面麻酔法 ・浸潤麻酔法 ・伝達麻酔法（上顎、下顎） ・局所麻酔の局所的偶発症

回	授業項目	授業内容
4	局所麻酔 1.局所麻酔の偶発症	・局所麻酔の全身的偶発症
5	精神鎮静法 1.精神鎮静法 2. 吸入鎮静法	・精神鎮静法の概念 ・精神鎮静法の目的 ・精神鎮静法の効果と適応 ・精神鎮静法と全身麻酔との相違点 ・笑気吸入鎮静法の利点と欠点 ・笑気吸入鎮静法の適応症と禁忌症 ・吸入鎮静法に使用される薬剤 ・笑気について ・笑気吸入鎮静法に使用される器械、器具 ・至適鎮静度・注意事項 ・術前・術中・術後管理
6	精神鎮静法 1.静脈内鎮静法	・静脈内鎮静法の臨床的分類 ・笑気吸入鎮静法と静脈内鎮静法 ・静脈内鎮静法の適応症と禁忌症 ・静脈内鎮静法に使用される薬剤 ・術前・術中・術後管理 ・患者への説明と指示 ・静脈内鎮静法の実施 ・至適鎮静度
7	全身麻酔 1.全身麻酔	・全身麻酔とは ・周術期管理の方法 （術前・術中・術後管理） ・歯科医療における全身麻酔の適応 ・術前の全身状態評価と管理 ・術前の経口摂取制限 ・手術危険度 ・麻酔前投薬
8	全身麻酔 1.全身麻酔に使用される薬剤 2.気管内麻酔 3.外来全身麻酔 4.ペインクリニック	・吸入麻酔薬 ・静脈麻酔薬 ・筋弛緩薬 ・気管内麻酔の適応 ・気管内麻酔の利点と欠点 ・外来全身麻酔とは ・外来全身麻酔の適応症と禁忌症 ・ペインクリニックとは ・ハリ麻酔
9	歯科臨床における救急処置 1.全身的偶発症 2.一次救命処置 3.AED	・全身的偶発症 ・ショック ・一次救命処置（心マッサージ、気道確保、 人工呼吸） ・AED
10	救急蘇生法	
11	これまでのまとめ	これまでのまとめ
12	定期試験対策	定期試験対策
13	国家試験対策	国家試験対策

【科目名】 歯科診療補助論3（講義）	【担当講師】 高橋邦夫

【年次・開講期】 3年次・後期	【時間】 20時間	【単位】 1単位

【授業概要】

超高齢化社会を迎え歯科診療所に来院する患者は、60歳以上が急激に増加している。昔と比べて、う蝕は減少傾向で高齢者を対象とする口腔機能回復が中核となり全身疾患を抱える患者も増えてきた。これからは以前からの歯科診療補助に加えて訪問診療、口腔健康管理、摂食嚥下リハビリテーションまでが要求される時代となった。これらに対応できる歯科衛生士の養成をするための知識と技能を身に着けさせることを目標とする。また、それら共同動作に必要な基本的な知識と技術を習得する。

【実務経験有】

みやこ歯科を開設・院長（歯科医師）

【到達目標】

歯科医院での補助、介助がスムーズにできるレベルまで、各自の技術・知識を高める。
また、有病者への対応や周術期　訪問診療時のスムーズなアシスタントワークの習熟をめざす

【教科書】

医歯薬出版　歯科診療補助学

【参考図書】

医歯薬出版　歯科機器　　医歯薬出版　歯科材料

【授業方法】

講義

【評価方法】

学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たし、全講義終了後、国家試験と同じ形式で
試験を行う。合計得点の60%以上の得点で合格とする。
出席実績、授業態度も評価する場合がある。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容
1	仮封材の取り扱い	仮封の目的、仮封材の種類、性質を理解するとともに、その取り扱い方を習得する。
2	印象材の取り扱い	アルギン酸、合成ゴム質印象材の実習を通して、各種印象材の性質、取り扱いを習熟する。
3	小外科手術時の器材の取り扱い	局所麻酔器具、替え刃メス、縫合器材の取り扱いを習熟する。
4	保存修復器材の準備	レジン、インレー、アマルガムの修復方法の違いに応じたセッティングが出来るようにする。
5	歯内療法器材の準備	根管治療・根管充填の基礎知識を学び、器材準備の手順を覚える。
6	歯周療法器材の準備	歯周組織の診査、歯周外科器材の準備を理解し、器具の取り扱いを覚える。
7	小児歯科治療器材の準備	ラバーダム、シーラント、歯髄切断法について理解し器材の準備
8	抜歯の準備と取り扱い	各処置の術式について理解し、必要な器具を準備できるようにする。
9	補綴用器材の取り扱い	義歯の印象、咬合採得、ろう義歯試適、研磨等について学び、使用する器具を準備できるようにする。
10	口腔内写真撮影	写真は客観的に残せる方法であり、後から確認できる。撮影法を学ぶ。